2025 年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　聖ヨハネ会

社会福祉法人聖ヨハネ会

基本理念

カトリックの精神に基づき、永遠の生命を有する人間性を尊重し、「病める人、苦しむ人、弱い立場の人」に奉仕します。

基本方針

1. 援助を必要とする人々をかけがえのない存在として関わり、人間の尊厳にふさわしい医療または福祉を追求しながら、共にいのちの質を高め合う全人格的な援助を行います。
2. 社会福祉の事業として、良質なサービスを提供し、公正に運営します。
3. 法令及び規程に則り、事業を運営します。
4. 地域社会に立脚した事業として、地域の福祉または医療に貢献します。

職員の心得

1. 私たちは法人の理念を理解し、その具体的な実現に努めます。
2. 私たちは自己の使命を認識し、その職能の専門性を十分に発揮するように努力し、各々が役割に応じた自己啓発に努めます。
3. 私たちは社会福祉事業である各施設を相互に理解のもとに、連携、協力に努めます。

活動の理念

病に苦しむ人、ハンディを負った人、自立の困難な人の隣人となって、援助の手を差しのべ、その必要に応えて最善を尽くします。

2025年度事業報告

目　次

一　法人本部事業報告 ・・・・・・・・・・・2

二　事業経営 ・・・・・・・・・・・5

1　障害福祉部門 ・・・・・・・・・・・5

2　高齢福祉部門 ・・・・・・・・・・・25

3　医療部門 ・・・・・・・・・・・55

4　収益事業部門 ・・・・・・・・・・・61

三　理事会 ・・・・・・・・・・・62

四　評議員会 ・・・・・・・・・・・66

五　経営会議 ・・・・・・・・・・・67

一　法人本部事業報告

【はじめに】

2025 年度は法人の中期経営計画（2023-2025 年度）の最終年度であった。昨年度に医療・介護・障害のトリプル報酬改定があり、当法人の事業すべてにおいて今後の指針となる国の考え方が示され、医療と介護の連携、重度障害への対応、BCP の実践、虐待防止の徹底、サイバー攻撃等からの情報漏洩への対応等々、これまでに示された方向をさらに加速させる内容となっている。次期中期経営計画（2026-2028 年度）においてしっかりと実現していくことが求められる。また世界的な国際情勢の変化により為替変動による物価高騰、エネルギー価格の高騰、人手不足による人件費の高騰等、社会福祉法人の運営に大きな支障をきたす環境の変化が続いている。

そのような中、事業収支は今年度も大変厳しい結果となり、継続性の観点からも　様々な点での事業の見直しを検討している。その中で病院事業については昨年度一旦縮小均衡を考える時と判断し、収支を安定させるための取捨選択を進め、療養病棟を一時休止することとしたが、東京都の病床適正化事業に手上げをし、療養病床のうち 27 床を返還することとなった。また桜町聖ヨハネホームの改築については東京都の建替えのための清瀬促進施設利用事業及び施設整備補助事業に手上げをするも、法人全体の財務状況と収支バランスが適正とみなされず不採用となったため、桜町在宅サービスセンターを含めた建物の維持計画を見直すこととなった。障害福祉部門では東京事業部の再編が完了し、世代継承のための人事体制を引き続き進めている。

国は「新たな地域医療構想」の更新や医療・福祉サービスの在り方に関する議論を進めており、2040 年を見据えて全ての地域・世代で適切な医療・介護を受けながら生活し必要な入院医療及び日常生活に戻る体制を構築するとされている。地域完結型の医療介護提供体制の構築においては「治す医療」と「治し支える医療」の役割分担の明確化や外来・在宅・介護連携の充実を目指すとされている。医療・介護・福祉の専門性を有する当法人の役割はますます重要であり、先駆的な実践を目指していきたい。

【事業報告】

1　理事会において、理事長及び業務執行理事の業務執行状況を報告した。(6 月及び 11 月)

2　会計監査人による 2025 年度の会計監査を実施した。

3　所轄庁への現況報告書を整備した。また財務規律の強化として作成義務のある財務諸表等電子開示システムに関する各種データを作成し、社会福祉充実残額を算出した。

4　法人機能の強化

(1) サービスの質の向上

(ア) 定款によって定められた「運営協議会」の第 17 回を 2025 年 7 月に、第 18 回を 2026 年 1 月に開催した。利用者家族や民生委員から構成される協議会で、要望や意見を聴く機会となり今後のサービスに反映していくこととなった。

開催日：第 17 回　2025 年 7 月 28 日（月）10：30－11：30

第 18 回　2026 年 1 月 26 日（月）10：30－11：30

(2) 地域における公益的な取組の推進

（ア）関係団体（全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、小金井市社会福祉協議会等）が主催する連絡会等へ参加し、法人間の連携や広域的な取り組みに協力した。(開催はすべてリモート開催)

○会議名：東京都社会福祉協議会医療部会

開催日：2025 年 5 月、7 月、9 月、11 月、12 月、2026 年 1 月、3 月

○会議名：全国福祉医療施設協議会

開催日：2025 年 10 月、12 月、2026 年 3 月

○会議名：東京都社会福祉協議会社会福祉法人経営者協議会

開催日：2025 年 4 月、6 月、7 月、9 月、11 月、2026 年 1 月、2 月

(3) 信頼と協力を得るための情報発信

（ア）2025 年度事業計画及び予算、2024 年度事業報告及び決算をホームページへ掲載した。また各事業活動、提供するサービスの内容、公益的な取り組みの実施状況等について、広報誌等を作成し利用者や家族、地域住民に発信した。

（イ）各施設の活動等を地域の町内会へ知っていただくための「聖ヨハネ会かわら版」を発行した。

(4) 人材の確保に向けた取り組みの強化

（ア）人材採用活動支援

特に高齢福祉部門の職員採用等を中心に、人材紹介会社との連携による人材確保、法人での採用面接会の開催などを実施し採用支援した。

(5) 組織統治（ガバナンス）の確立

（ア）内部管理体制の基本方針に基づき、組織体制を見直し法人組織規程を改定した。

（イ）理事長専決事項の委任行為項目を見直し、定款細則を改定した。

（ウ）物価高騰等を受けた国からの通知により、随意契約とする額を見直し、経理規程を改定した。

5　事業運営に沿った規程類の整備について
各部門において給与規程、就業規則、組織規程、運営規程等について改訂した。

6　昨年度に引き続き 2025 年 10 月に桜町地区の「地域交流会」を実施した。

7　桜町病院の勤怠管理及び給与システムの内製化を完了した。また聖ヨハネホスピスケア研究所、シニアハイムさくら及び障害福祉部門東京事業所、高齢福祉部門の会計業務及び事務業務をサポートした。

8　障害福祉部門東京事業部の勤怠管理システムの構築に着手した。

その他活動については、後述の経営会議の活動実績を参照されたい。

9　庶務・登記・監査事項等

1）基本財産処分承認申請

●2025 年 8 月 24 日　　小金井市桜町一丁目所在の児童福祉サービス事業（病児保育）の建物および土地の処分

2）定款変更認可申請

●2025 年 10 月 23 日　　病児保育事業の廃止
高齢者賃貸住宅事業の廃止
学童保育賃貸事業の開始
上記基本財産処分

2）登記

登記年月日	登記内容
2025 年 6 月 30 日	資産の総額（5,318,083,183 円） （2025 年 3 月 31 日時点）

3）指導監査等

実施年月日	内容	監査人等
2025 年 5 月 19 日	2024 年度監事監査	監事 会計監査人

4）調査等

提出年月	提出内容	提出先
2025 年 5 月	障害者雇用状況報告書	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
2025 年 6 月	社会福祉法人調査票 現況報告書	東京都福祉保健局指導監査部指導調整課指導調整係
2025 年 7 月	事業報告書	独立行政法人　福祉医療機構

二　事業経営

１．障害福祉部門

【　総　　括　】

部門の方針及び事業について

各事業は、事業継続計画にそった対策と対応により、感染症等（自然災害含め）による事業への大きな影響はなく安定した事業運営を続けている。（各事業では、事業継続計画を策定している）

障害福祉部門では、中期経営計画に基づき取り組んでいるが、本年度はその最終年度にあたる。

課題の一つである利用者の重度化・高齢化では、適切な支援を確保する観点から利用者の意向を確認しながら学園、グループホーム間での移動に取り組んだ。その取り組みの中で、東京事業部の本町グループホームの女性利用から男性利用への転換、山梨事業部の河口湖聖ヨハネケアービレッジの借家契約の終了にともなう利用者の移動に取り組んだ。

二つ目の課題である人材の確保は、各産業での人材の確保の競争が激しく困難な状況が続いた。各大学、専門学校、ハローワークへの依頼（訪問）を行うとともに、職員からの紹介による採用に取り組み一定の成果につながっているが、未来を担うだけの採用者数を確保することはできなかった。しかしながら正規職員が定年後に嘱託職員として雇用を継続することで、次年度の事業運営に必要な職員の確保ができた。

このような状況の変化に的確に、迅速に対応できる組織を再構築することを次期中経営計画の柱としている。

財務状況について

障害福祉部門では、学園が収入の柱になっているが、部門としての次の事業展開、施設及び設備の修繕のためには、学園だけに頼る経営はできないため、各事業所で、収支の改善に取り組んでいる。

富士北麓聖ヨハネ支援センターでは、職員の配置を見直すことで、人員配置加算を上げ、収益をあげることに取り組んでいる。

東京事業部では、性質上採算の見合わない就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援 B 型の定員を増やしている。

各事業では、収支に反映される入所率、利用率を上げることを優先課題として取り組みを継続している。2026 年度には、部門全体の収支をプラスにすることを目標としている。

中期経営計画について

障害福祉部門では、中期経営計画に基づき取り組んでいるが、本年度が中期経営計画の 3 年目にあたり、この間の取り組みを確認、評価しながら次の中期経営計画につなげることとしている。

この 3 年間の取り組みでは、法人の理念に則りながら「部門の財政基盤の安定」に取り組んできたが、収支は、困難な状況になっている。部門では、各事業の収支の改善に取り組んでいる途中であり、改善のための取り組みは進捗しているが、そのことが成果に反映されるためには、2026 年度の取り組みが重要（転換点）だと考えている。

部門職員全体で、目標を共有しながら達成したい。

※法人の理念に則り、個々の利用者にとって適切な生活環境、豊かな生活を築くための支援を行うことが障害福祉部門の目的である。

拠点区分名：富士聖ヨハネ学園

Ⅰ　事業所名　　：富士聖ヨハネ学園
　　サービス区分名　：施設入所支援事業・短期入所事業・生活介護事業

【2025 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3 月末)	1 日平均 利用者数	利用率 (R7 年度)	利用率 (R6 年度)	利用率 (R5 年度)
生活介護	154 人	129 人	123.6 人	80．3%	83.0%	83.0%
施設入所支援	122 人	116 人	112.5 人	92．3%	96.7%	98.4%
短期入所	8 人	―	3．5 人	44．6%	5.3%	16.6%

平均年齢　　55.7 歳（最高　78 歳　最低　20 歳）
男女比率　　59 名（男子）　：　58 名（女子）
平均在所期間　23.7 年（最長　53.8 年）
年間入所　　8 名　　年間退所　3 名（死亡）　1 名（他事業所）

【職　　員】

	令和 7 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						令和 8 年 3 月 31 日 の職員数		
				正規職員		非正規職員		合計				
	正規職員	非正規職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正規職員	非正規職員	合計
園長	1		1							1		1
サビ管	5		5							5		5
生活支援員	73	33	106	2	7	2	2	4	9	68	33	101
事務員	4		4							4		4
栄養士・ 調理員	4	11	15	2		1		3		6	12	18
設備等	1	2	3							1	2	3
医師		1	1								1	1
看護師	1		1							1		1
医療事務員		1	1								1	1
合計	89	48	137	4	7	3	2	7	9	86	49	135

＊非正規職員については、拠点間異動を含むため合計数値が一致しない。

【施設運営状況】

新型コロナによる感染者がでたが一時的閉鎖措置をとりクラスターまでは至らなかった。インフルエンザにより感染者が男性フロアにて出て、利用者・職員で 10 名を超えたため、保健所に報告を行った。その後、すぐに収束に向かった。

利用定員 122 名に対し 116 名が入所している。経営と運営への影響を抑えるため安定した施設入所者数の確保に取り組んでいる。

【利用者支援状況】

一泊旅行・日帰り旅行など利用者の活動、外出を実施。面会はソフィアホールを使って行った。家庭帰宅を希望される保護者がおられるので、実施をしてきた。

以上の取り組みについては、本年度実施された第三者評価でも、利用者、保護者から評価を頂いている。情報の開示と共有は、これからも迅速かつ丁寧に行っていきたい。

【施設整備状況】

・学園入口の接続道路（仮称：新鐘山道路）は 2025 年度無事開通することができた。混雑するのではないかと心配されたが、今のところ大きな問題はない。
・空調機の交換を順次行う予定。

【教育研修】　山梨事業部（富士聖ヨハネ学園）

日　時	研　修　名	会　場	出席者
4/2	新任職員研修	会議室２	６名
5/29～30	日本カトリック児童施設協会全国会議	ANA プラザホテル	小松繁
6/20	本人中心支援（新任職員向け）研修	渋谷区りばぁさいど原宿	４名
6/27	感染症予防 Step	看護協会看護教育研修センター	天野鈴香
7/9～8/7	支援３課ガウンテクニック	支援３課	
７/9	利用者主体のニーズ	県立青少年センター	３名
8/19	給食施設従事者研修会	富士吉田合同庁舎	長崎・渡辺
8/28～	支援２課ガウンテクニック	支援２課	
9/3	自閉スペクトラム症の人のライフステージを考える	富士吉田市民会館	仲野　長田
9/15	支援３課　寮内リスクについて考える	会議室１	
9/19	支援２課　障がい者のためのレクリエーション	支援２課食堂	
10/6	日本カトリック児童施設協会関東研修会	ベトレヘム学園（東京都）	小松・平賀
10/14～15	聖ヨハネ会　研修会	山中・雪の聖母修道院	９名
10/26	管理栄養士のための地域共生セミナー	Zoom	萱沼
11/6	今さら聞けない怒りとの付き合い方	福祉プラザ	三枝
11/9	口腔機能障害を学ぶ	Zoom	長崎　渡辺
11/10	リーダーが知っておきたいハラスメント	ソフィアホール	係長以上
11/11	運動と認知課題を組み合わせたコグニサイズ	山梨県福祉プラザ	天野栞
11/18	栄養ケアプロセスは現場でどう使っている	敷島総合文化会館	萱沼
11/11～12	強度行動障害基礎研修	県立青少年センター	星
11/18～19	強度行動障害実践研修	県立青少年センター	星
11/26	自閉症スペクトラム症について	富士山ホール	仲野
12/5	しあわせな高齢期の過ごし方	Teams	安留
12/11	東社協　虐待防止研修	Zoom	渡辺充
12/2～14	給食施設における衛生管理について（動画）	食事サービス課休憩室	
12/17	介護が必要な方の口腔ケア　基礎編	県立文学館	安留
12/2	山梨県虐待防止研修　管理者・虐待マネジャー	ぴゅあ総合	５名

1/17～18	Teacch ヤマナシ研修会	県立青少年センター	3 名
1/20	山梨県虐待防止研修　基礎	ぴゅあ総合	4 名
1/28	困難事例に出くわしたらどうする？	Zoom	16 名
1/29	知的障害者の余暇支援と強度行動障害の予防	富士ふれあいセンター	安留
2/13	強度行動障害フォローアップ研修	県立青少年センター	3 名
3/9	支援 3 課　嚥下の理解を深める	支援 3 課	
3/26	人権を知るところから始まる虐待防止	ソフィアホール	50 名

Ⅱ　事業所名　　：富士聖ヨハネ学園　　診療所

【施設運営状況】

嘱託医　(内科医 2 名　　精神科医　2 名)協力のもと学園診療所での医療体制が構成されている。利用者の治療に対し、診察・検査などおこなっている。利用者の状況により外部医療機関へ情報提供書を作成し通院など行っている。また電話などで、診察日以外相談し、指示を受けている。

（現況　内科医 T　週 1 回　　精神科医　週 1 回　　精神科医　月 1 回　消化器内科月 1 回）

【利用者支援状況】

・日々寮日誌から利用者に健康状態の把握を行っている。また各課巡回や電話などで支援員から利用者状態報告を受け、観察・対応・支援員にアドバイスを行っている。
・外部医療機関への通院時各課支援課長から依頼より通院の付き添いを行っている。
・支援課長から依頼を受け、利用者の身体・精神的状態を保護者に説明する。また保護者から利用者の健康状態の相談を受け、対応や医師へ相談する。そして結果を各課支援課長に報告する。
・支援員から利用者の外部医療機関通院時どのように受診方法をアドバイスしている。状況によっては、支援員の代わりに医療機関へ受診の依頼を行っている。
・利用者の健康診断を支援員の協力ものと年 2 回行っている。
・山梨障害部門の利用者・職員対象の予防接種を実施している。
・診療所主催の勉強会を行っている。
　服薬介助について：対象　新任職員
　感染症対策（主にガウンテクニック）：対象　支援員
　今年は、２・３課では、少人数によるガウンテクニックの勉強会を行った。
・看護記録を記載や看護サマリーを作成している。

【施設整備状況】

・診療に必要な機器を、医師と相談しながら購入している。
・医療関係（病院、薬局）では、電子カルテシステム（必要最小限の機能）等をベースとした情報の伝達と共有が進んでいるため診療所でも導入していきたい。

拠点区分名：富士北麓聖ヨハネ支援センター

Ⅲ　事業所名　　：富士北麓聖ヨハネ支援センター
　　サービス区分名　：生活介護事業・就労継続支援Ｂ型事業・短期入所事業

【2025 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3 月末)	1 日平均 利用者数	利用率 (R7 年度)	利用率 (R6 年度)	利用率 (R5 年度)
生活介護	35 人	36 人	28.7 人	82.0%	79.4%	77.8%
就労継続支援 Ｂ型	15 人	11 人	9.3 人	67.2%	67.2%	67.2%
短期入所	3 人	ー	1.8 人	73.0%	73.7%	73.7%

平均年齢　35．2 歳（最高　68 歳　最低　20 歳）
男女比率　26 名（男子）　：　22 名（女子）
平均在所期間　6．9 年(最長 11．1 年)
年間入所　3 名　　年間退所　3 名

【職　　員】

	令和 7 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						令和 8 年 3 月 31 日 の職員数		
				正規職員		非正規職員		合計				
	正規職員	非正規職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正規職員	非正規職員	合計
管理者	1		1							1		1
サビ管	1		1							1		1
生活支援員	8	14	22	2	1	5		7	1	9	19	28
看護師	2	1	3							2	1	3
調理員		1	1								1	1
合計	12	16	28	2	1	5		7	1	13	21	34

【施設運営状況】

利用者の意向、希望を各行事や活動に反映させながら運営を行うことができた。また、各行事、活動は、毎月保護者に伝えるようにした。(『北麓こだま』及び保護者向けの案内、説明文書の発行）生活介護、就労継続支援Ｂ型は、概ね年度初めの年間計画を実施することができた。
河口湖聖ヨハネケアービレッジの廃止にともない、グループホームに勤務していた職員は、一部センターに異動し、センターの配置を 2.0 から 1.7 に上げることができた。(支援量の増加、収入の増加）またセンターの課題は、会議で利用者支援の向上の視点で検討し改善を図った。
自然災害を想定した訓練を実施したが、課題として富士山噴火時の保護者との連携（連絡、送迎、避難）が、早急の課題となっている。また、施設後方からの階段を使用した避難の仕方も来年度の課題となっている。
支援力の向上につながる研修では、虐待防止研修、食べ物を詰まらせたときの対応等の研修を

実施した。強度行動障害のある利用者の支援では、まだ不十分な面がみられるため来年度は、外部研修（山梨県強度行動障害者支援者研修等）に参加しながら支援力を高めていきたい。その他、虐待防止研修、感染予防研修、管理監督者研修を行った。

【利用者支援状況】

（生活介護）利用者の生活場所の移動により 2 名が退所となったが、新たに 2 名が入所した。現在生活介護の契約者は、37 名になり、車椅子を利用されている利用者も多く、支援量、活動環境（広さ）も、限界に近づいている。（今後の契約にも影響が出てきている）

生活介護では、季節を味わう活動（外出、創作等）にとりくみ、ひとりひとりの利用者の記憶にのこるような取り組みを行った。

・旅行（利用者の意向を反映して企画)、お花見外出、クリスマス会・・・

・活動（創作、ゲーム、行事、おやつ作り、社会参加）

・理学療法士によるリハビリテーションプログラムを行い、それを看護師が中心となり行った。

（就労 B）利用者の生活場所の移動により 2 名が退所となったが、新たに 2 名が入所した。（車椅子を利用）現在就労継続支援 B 型の契約者は、11 名になっている。目標とした平均工賃 5%を達成するとともに、各利用者の作業スキルの向上が達成できた。

・煎餅　顧客からの注文、各取引により売り上げは伸びているが、材料費の高騰により煎餅の価格帯の見直しが必要になっている。

・かわらけ　生産量の増加により増益も見込まれるが、作り手の不足が課題になっている。

・受注　安定した作業により売り上げは順調に上がっているが、納期に追われ職員のカバーが多くなることが課題になっている。

【施設整備状況】

開所から 10 年経過し、空調機器及び給湯等の修理を行った。その他は、大きな施設整備にかかわる費用は発生しなかった。

【教育研修】　通所支援課（富士北麓聖ヨハネ支援センター）

日　時	研　修　名	会　場	出席者
4 月 1 日	採用時研修（個人情報保護等）　法人	法人本部	1 名
4 月 2 日	採用時研修～1 年間（年 10 回）3 月 25 日成果報告会	学園	1 名
4 月 4 日	障害福祉サービスを知る（学ぶ）	センター	26 名
5 月 22 日	ハラスメント研修（職場環境改善の取り組み）	センター	25 名
6 月 25 日	虐待防止研修（講師野沢氏国研修動画）	センター	26 名
8 月 27 日	腰痛予防研修（介護時の介護者の姿勢）	センター	25 名
9 月 3 日	就労支援の現在地とこれから	山梨県立図書館	1 名
10 月 28 日	感染症及び摂食嚥下（食べ物を詰まらせたとき）研修	センター	26 名
11 月 10 日	リーダーが知っておきたいハラスメントとメンタルヘルス	学園	1 名
11 月 11 日	強度行動障害者支援者養成研修　基礎・実践	青少年センター	1 名
11 月 18 日	介護現場における感染症予防（資料研修含む）	学園	28 名
1 月 28 日	行動制限にかかわる研修（記録の取り方）	センター	25 名

2 月 25 日	避難訓練（車椅子での階段を降りる方法を学ぶ）	センター	26 名
3 月 26 日	虐待防止研修（学園合同）	学園	2 名

Ⅳ　事業所名　　：河口湖聖ヨハネケアービレッジ
富士吉田聖ヨハネケアービレッジ
寿聖ヨハネ短期入所
サービス区分名　：共同生活援助　（介護サービス包括型）・短期入所事業

【2025 年度利用状況報告】

種別	定員	現員（3 月末）	1 日平均利用者数	利用率（R7 年度）	利用率（R6 年度）	利用率（R5 年度）
河口湖聖ヨハネケアービレッジ	9 人	0 人	人	0%年度末	88.8%	99.6%
富士吉田聖ヨハネケアービレッジ	13 人	12 人	12 人	92.3%	87.6%	91.4%
富士吉田 CV 短期入所	1 人	―	1 人	90.7%	90.7%	45.5%

※河口湖聖ヨハネケアービレッジ 3 月 31 日事業廃止

平均年齢　　52.7 歳（最高　75 歳、最低　37 歳）

男女比率　　６名（男性）　：　６名（女性）

平均在所期間　６年（最長　10 年）

年間入所　　河口湖聖ヨハネケアービレッジ　廃止

富士吉田聖ヨハネケアービレッジ　2 名退所（寿第２）　1 名入所（寿第２）

【職　　員】

	令和 7 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						令和 8 年 3 月 31 日の職員数		
				正規職員		非正規職員		合計				
	正規職員	非正規職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正規職員	非正規職員	合計
管理者	1		1							1		1
サビ管	1		1							1		1
生活支援員	5	11	16		2		2		4	3	9	12
合計	7	11	18		2		2		4	5	9	14

【施設運営状況】

富士吉田聖ヨハネケアービレッジ（寿第一　寿第二）は、2 名の退所（移動、入院）、1 名が入所。現在女性 1 名が空きになっている。（令和 9 年 6 月入所予定で取り組んでいる）また、短期入所支援は、ほぼ 100%の利用率になっている。

河口湖聖ヨハネケアービレッジは、借家契約の終了により事業を廃止している。なお、ケアーホームを利用されていた方は、本人の意向を確認し、東京事業部のグループホーム、山梨事業部のグループホームに移動している。職員の一部は、センターに異動して勤務している。

グループホームでは、避難訓練（火災及び地震想定）を実施するとともに各研修に参加し、支援力の育成に取り組んでいる。（感染所予防、虐待防止研修、管理監督者研修等）

【利用者支援状況】生活支援（介助）では、季節の行事や誕生日会等を企画し毎月実施した。また個々の利用者の希望により個別の外出を行った。（旅行、買い物、外食、映画等）
また、日々の健康観察や状況を把握し、適宜迅速に保護者に伝え、対応を行った。
大きく体調を崩すことなく通所することができていた。

【施設整備状況】

・特になし

【教育研修】居宅支援課（ケアービレッジ）

日　時	研　修　名	会　場	出席者
5 月 22 日	ハラスメント研修	寿第 1	8 名
6 月 25 日	虐待防止研修（講師野沢氏国研修動画）	寿第 1	8 名
10 月 28 日	感染症及び摂食嚥下（食べ物を詰まらせたとき）研修	寿第 1	8 名
11 月 10 日	リーダーが知っておきたいハラスメントとメンタルヘルス	学園	1 名
11 月 18 日	介護現場における感染症予防（資料研修含む）	学園	3 名
3 月 26 日	虐待防止研修（学園合同）	学園	3 名

Ⅴ　事業所名　　：さぽーとヨハネ
サービス区分名　：相談支援事業

【2025 年度利用状況報告】

登録者 248 名

【職　　員】

	令和 7 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						令和 8 年 3 月 31 日の職員数		
				正規職員		非正規職員		合計				
	正規職員	非正規職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正規職員	非正規職員	合計
管理者	1		1							1		1
相談支援専門員	3	1	4	1				1		4	1	5
合計	4	1	5	1				1		5	1	6

【施設運営状況】

・富士北麓障害者基幹相談支援センターに、本年度相談員を替えて 1 名出向。

・富士聖ヨハネ学園入所利用者、富士北麓聖ヨハネ支援センター及び富士北麓地域に居住の方の計画相談契約者数が 248 件に達している。

・本年度相談支援課に 2 名（1 名基幹相談から相談支援課に戻る）増配置し、山梨事業部内での研修、育成（新卒研修)、に取り組んでいる。

【利用者支援状況】

障害福祉部門の障害者サービスを利用されている方の希望、意向及び状況を把握しながら適切なサービスが提供できるように取り組んだ。また地域の利用者のサービス等利用計画や防災避難計画に携わりながら地域の課題に取り組んだ。

【施設整備状況】

・特になし

【教育研修】相談支援課（相談支援）

日　時	研　修　名	会　場	出席者
7 月 11 日	令和 7 年度山梨県相談支援従事者現任研修 2 日間	ぴゅあ総合	1 名
8 月 1 日	令和 7 年度山梨県相談支援従事者初任研修 7 日間	ぴゅあ総合	1 名
10 月 17 日	山梨県精神障碍者の障がい特性と支援技法を学ぶ（基礎）	ZOOM 研修（センター内）	1 名
12 月 2 日	高次脳機能障害支援者養成研修　基礎・実践	甲州コミュニティーホール	1 名
1 月 31 日	第 42 回　日本小児神経学会　山梨小児神経　テーマ県内の発達障害に関わる多職種の取り組み	山梨大学医学部キャンパス	1 名
2 月 2 日	意思決定支援の基本を学ぶ	きぼうの家（甲府）	1 名
2 月 9 日	令和 7 年度山梨県医療的ケア児等コーディネート養成研修	きぼうの家（甲府）	1 名
2 月 11 日	医療的なケア児等支援を学ぶ　支援者養成	きぼうの家（甲府）	1 名
2 月 14 日	第 40 回日本ダウン症療育研究会	山梨大学大村智記念館	1 名
2 月 17 日	高次脳機能障害の支援を通じて障がい&介護を学びあおう	きぼうの家（甲府）	1 名
2 月 18 日	高次脳機能障害の支援を通じて、障害と介護を学ぶ	きぼうの家（甲府）	1 名
3 月 12 日	本人が望む生活を支援するために	きぼうの家（甲府）	1 名

拠点区分名：障害福祉部門　小金井

Ⅵ　事業所名　　：小金井聖ヨハネ支援センター
　　サービス区分名　：生活介護事業・就労移行支援事業・就労継続支援Ｂ型事業
　　就労定着支援事業

【2025 年度利用状況報告】

種別	定員	現員（3 月末）	1 日平均利用者数	利用率（R7 年度）	利用率（R6 年度）	利用率（R5 年度）
生活介護	25 人	25 人	21.6 人	86.8%	79.7%	79.9%
就労継続支援Ｂ型	35 人	27 人	22.2 人	63.4%	76.7%	76.7%

※2025/9/30 就労移行廃止、10/1 就労継続支援Ｂ型 25→35 名に定員変更

平均年齢　　生活介護 39.9 歳　就労継続Ｂ型 38 歳
　　（最高　76 歳　最低　18 歳）

男女比率　　生活介護 19 名：6 名　　就労継続Ｂ型 16 名:11 名

平均在所期間　生活介護 7.0 年　就労継続Ｂ型 7.6 年　（最長 17 年）

年間入所　　6 名　　年間退所　　3 名

【職　　員】

	令和 7 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						令和 8 年 3 月 31 日の職員数		
				正規職員		非正規職員		合計				
	正規職員	非正規職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正規職員	非正規職員	合計
センター長	1		1							1		1
サビ管	2		2							2		2
生活支援員	4	11	15			1	1	1	1	4	11	15
事務員	2	2	4							2	2	4
栄養士・調理員	2	2	4							2	2	4
医師		1	1								1	1
看護師		1	1								1	1
合計	11	17	28			1	1	1	1	11	17	28

【施設運営状況】

障害福祉部門の再編および開設 10 年を機に、就労移行支援を廃止し就労継続支援 B 型の定員を 35 名に変更した。また、定着支援事業についても 3/31 に廃止した。

生活介護では利用者が安定して通所できる事を目指し、環境の改善と支援力の向上を目指した。就労継続支援Ｂ型では定員変更に伴い、新規作業の受託数の増加と新規利用者の獲得に向け取り組み、特別支援学校との連携を深め実習体験などを進めた結果、来年度 4 月新卒利用者１名の受け入れ予定となった。

【利用者支援状況】

生活介護では利用者の障害特性への理解を深める為、週１度の所属会議を設け職員間のコミュニケーションを強化したことにより、統一の図れた支援を行えるようになった。また、基礎的支援力の向上、強度行動障害への理解等、様々な研修会に参加した。

就労継続Ｂ型では販売イベントへの取り組み強化により売り上げの増加が見込めたが、物価高騰の影響が大きく、経費削減が現状の課題となった。新規利用者も徐々に増えていることに伴い、次年度も工賃向上を見据え、新規受託業務の増加を目指していく。

《作業種類》パン販売は支援センター内と新規卸販売(市内店舗)、法人敷地内他部門への移動販売を継続。【販売日　火・木】

○屋外清掃業務：法人本部内トイレ清掃、小金井市委託（公園・砂場・公園トイレ）清掃業務、地域不動産業者委託（アパート清掃、敷地内除草作業）

○室内作業：パン製造・販売・配送、小金井市委託（リサイクル袋作り)、一般業者委託（ネジ組立て、封入、チラシ折り込み内職)、刺しゅう小物作り

○その他作業：市内各イベント出店など

【施設整備状況】

・生活介護　エアドック購入

・玄関エアコン設置

Ⅶ　事業所名　　：小金井聖ヨハネケアービレッジ（3 ユニット）

サービス区分名　：共同生活援助事業　（介護サービス包括型）

【2025 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3 月末)	1 日平均 利用者数	利用率 (R7 年度)	利用率 (R6 年度)	利用率 (R5 年度)
本町 1	7 人	7 人	6.9 人	98.2%	100%	100%
本町 2	7 人	7 人	5.3 人	76.4%	100%	100%
本町 3	4 人	0 人	1.7 人	43.9%	87.4%	100%
貫井北町	2 人	0 人	1.1 人	45.8%	100%	100%
梶野町	7 人	7 人	6.8 人	97.8%	92.8%	100%

平均年齢　　53.0 歳（最高　83 歳、最低　25 歳）

男女比率　　21 名（男性）

平均在所期間　9.6 月（最長　21 年）

年間入所　　6 名　　年間退所　　8 名

＊本町３ユニット　2025 年 5 月 31 日　廃止

＊貫井北ユニット　2026 年 1 月 31 日　廃止

【職　　員】

	令和７年４月１日の職員数			年間退任・就任						令和８年３月31日の職員数		
				正規職員		非正規職員		合計				
	正規職員	非正規職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正規職員	非正規職員	合計
管理者	1		1							1		1
サビ管	1		1							1		1
世話人 生活支援員	8	20	28		2	2	4	2	6	6	18	24
合計	10	20	30		2	2	4	2	6	8	18	26

【施設運営状況】

小金井聖ヨハネケアービレッジ本町３の閉所に向け前年度より転居を行っていたが、残り２名の利用者が梶野町と本町１にそれぞれ入居し５月末に本町３を閉所した。貫井男性利用者１名が本町２へ、女性利用者が清瀬聖ヨハネケアービレッジへ転居したことで貫井北も閉所となる。小金井聖ヨハネケアービレッジ本町１より男性１名が高齢化の為退居、富士聖ヨハネ学園に入所している。小金井聖ヨハネケアービレッジ本町２が男性寮へ変更になる為、女性７名のうち５名が緑町聖ヨハネケアービレッジへ、１名が清瀬聖ヨハネケアービレッジへ、１名が富士聖ヨハネ学園へ転居している。２月に河口湖聖ヨハネケアービレッジより３名、貫井北より１名、在宅より３名の入居者を迎え男性利用者７名満床となる。小金井聖ヨハネケアービレッジ本町１・梶野町共に７名ずつ入居されており満床となっている。

【利用者支援状況】

今年度も感染症に気をつけながら、体調不良者には早めの対応を心掛けた。肺炎で入院した利用者が１名。新型コロナウイルスやインフルエンザの罹患者は数名あったものの迅速な対応により感染拡大はせずに済んでいる。利用者の高齢化の影響もあるが転倒事故が続き、骨折者が３名。日々の介助と支援方法の確認を行った。また、認知機能の低下が見られる利用者も出てきており外出後、迷子になってしまう事が続き一人での外出が出来なくなってしまったが移動支援を利用し外出を行うこととした。今年度は再編により各事業所の利用者の入退居があり利用者の皆さんには色々と影響があったと思われるが、それぞれの環境を受け入れケアービレッジでの生活を送る事ができている。今後も引き続き、利用者の安全を守りながらケアービレッジで安心して自分らしい生活ができるよう支援を行ってゆく。

【施設整備状況】

・2F ビルトインエアコン交換
・1F 風呂釜給湯器交換

Ⅷ　事業所名　　：緑町聖ヨハネケアービレッジ（2ユニット）
　　サービス区分名　：共同生活援助事業　（日中サービス支援型）

【2025年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R7年度)	利用率 (R6年度)	利用率 (R5年度)
緑町1	9人	9人	9人	100%	100%	100%
緑町2	9人	9人	6.2人	69.3%	94.4%	100%

平均年齢　　52.0歳（最高　71歳、最低　31歳）
男女比率　　9名（男性）　：　9名（女性）
平均在所期間　3.7年（最長　5.0年）
年間入所　　4名　　年間退所　　5名

【職　　員】

	令和7年4月1日の職員数			年間退任・就任						令和8年3月31日の職員数		
				正規職員		非正規職員		合計				
	正規職員	非正規職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正規職員	非正規職員	合計
管理者	1		1							1		1
サビ管	1		1							1		1
世話人 生活支援員	8	7	15	2	1	3	2	5	3	9	8	17
合計	10	7	17	2	1	3	2	5	3	11	8	19

【施設運営状況】

緑町聖ヨハネケアービレッジ男性利用者の変更はなく安定した運営でスタートした。女性利用者に関しては昨年度から入院していた利用者の退居と高齢化により3名が退居し富士聖ヨハネ学園に入所した。空き室に関しては再編により小金井聖ヨハネ第2ケアービレッジから5名を順次受け入れ2月で再編終了。9室満床となる。

職員に関しては前年度に引き続き人手不足の厳しい状態での運営となった。小金井聖ヨハネ第2ケアービレッジの再編終了により女性職員が異動してきたことで職員数の確保ができた。

また、設備面では湿気対策による廊下・食堂のエアコンや廊下の通気口の工事により今年度の夏は廊下や玄関が水浸しになる事なく快適に過ごすことができた。

【利用者支援状況】

今年度も感染症に気をつけながら、体調不良者には早めの対応を心掛けた。新型コロナウイルスやインフルエンザの罹患者は数名あったものの迅速な対応により感染拡大はせずに済んでいる。高齢の利用者への対応や支援の難しい利用者への対応などに関しては手順書を作成し統一した支援ができるよう取り組んだ。1階女性利用者に関しては前年度から今年度にかけての再編により大幅

な入退居があった為、利用者同士また利用者と職員との新たな関係構築に取り組んだ。今後も引き続き、利用者の安全を守りながらケアービレッジで安心して自分らしい生活ができるよう支援を行ってゆく。

【施設整備状況】

なし

Ⅸ　事業所名　　：小金井聖ヨハネ短期入所
サービス区分名　：短期入所事業

【2025 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3 月末)	1 日平均 利用者数	利用率 (R7 年度)	利用率 (R6 年度)	利用率 (R5 年度)
短期入所	4 人	―	2.0 人	49.2%	28.0%	43.8%

前年度に引き続き感染症対策をしながら 4 床での短期入所受け入れを行った。桜町児童ショートの利用者受け入れが 12 月に終了。約 1 年間であったが協力体制を組めたことは今後、子供たちが成長した後の利用にも繋がると思われる。小金井聖ヨハネケアービレッジ再編により短期入所を定期的に利用していた利用者数名がケアービレッジに入居したことで短期入所利用者が減った為、利用率が下がっている。男性の新規契約者に利用して頂けるよう関係機関とも連携し体制を整える。

Ⅹ　事業所名　　：緑町聖ヨハネ短期入所
サービス区分名　：短期入所事業

【2025 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3 月末)	1 日平均 利用者数	利用率 (R7 年度)	利用率 (R6 年度)	利用率 (R5 年度)
短期入所	2 人	―	0.8 人	38.6%	26.9%	14.2%

前年度に引き続き、感染症対策をしながら男性 1 床・女性 1 床で短期入所受け入れを行った。男性利用者に関しては定期的な利用者数が少なく利用率を上げたいところだが、緊急の受け入れは連泊で行う事が出来た。女性利用者に関しては契約者が増え利用率が上がっている。1 床での対応なので希望日が重なる事もあり、調整が必要となっている。
今後も利用者のニーズに応えられるよう受け入れ態勢を整えてゆく。

ＸＩ　事業所名　　：ふらっとヨハネ
　　サービス区分名　：相談支援事業

【2025 年度利用状況報告】

登録者 157 名

【職　　員】

	令和 7 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						令和 8 年 3 月 31 日の職員数		
				正規職員		非正規職員		合計				
	正規職員	非正規職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正規職員	非正規職員	合計
管理者	1		1							1		1
相談支援専門員		1	1								1	1
合計	1	1	2							1	1	2

【施設運営状況】

地域生活を安心して送れることを目的として、福祉サービスの切れ目ができないよう多方面と連携し利用者支援を行った。また、相談支援員として今後の福祉施策の動向にも注視していく観点から、所管である小金井市の自立支援協議会の傍聴を続けた。権利擁護の関係では、後見人制度利用についての声が多くあったことから、小金井市社会福祉協議会や他の事業者とも連携し必要な情報を提供した。一方では、後見人制度利用に疑義を感じた状況もあったことから、今後とも市区町村及び他事業者と連携しながら支援を継続していきたい。障害者福祉のみでは対応しきれない事例も多くなってきており、医療・高齢等の障害福祉サービスの枠組みを超えた連携強化も行った。なお、この状況は今後増えるものと考えられる。

【利用者支援状況】

利用者さんの高齢化が進み、行政によっては介護保険制度利用に切替られるケースも出てきていることから、行政機関のみならず市内の地域包括支援センターとの連携の強化を行った。昨今の社会情勢等により利用者を取り巻く状況も複雑化していることから、福祉サービスのみならず様々なサービスが体系的に受けられるよう、他事業者とも連携し適度な利用者数を目指し支援を行った。また、市内相談支援事業所との連携として、事業者連絡会に参加し意見交換を行っている。

【施設整備状況】

なし

教育研修　小金井

日時	研修名	会場	出席者
2025/4/1 ～9/30	日本知的障害者福祉協会　オンデマンド研修 第６期　障害のある子どもの支援	ＷＥＢによる収録型動画配信	22　名
2025/6/23 ～8/29	令和７年度業務管理体制の整備に関する事業者向け研修	Ｚｏｏｍウェビナーによる配信	1　名
2025/7/1 ～9/10	令和７年度東京都障害者虐待防止・権利擁護研修	講義　オンデマンド　7/1～7/27 演習　オンライン　８月～９月	4　名
2025/7/16	令和７年度東京都グループホーム制度施策について	Ｚｏｏｍウェビナーによる配信	2　名
2025/8/1	令和７年度　労働基準法等に関する研修	Ｚｏｏｍウェビナーによる配信	1　名
2025/8/1 ・9/5	令和７年度　三年目職員研修	飯田橋セントラルプラザ	1　名
2025/8/19	からだの動きを通した関りについて	飯田橋セントラルプラザ	1　名
2025/8/29	令和７年度 第１回　部内研修	緑町聖ヨハネケアービレッジ	5　名
2025/9/1 ～11/26	令和７年度障害者グループホーム管理者研修	オンデマンド配信　9/1～11/26 集合研修　10/27　or　11/7	2　名
2025/9/9 ～9/29	令和７年度障害者グループホーム従事者基礎研修	オンデマンド配信	2　名
2025/8/22 ～9/12	令和７年度強度行動障害支援者養成研修 基礎研修	講義：オンデマンド配信　8/22～9/5 演習：9/12	1　名
2025/9/18	令和７年度 第２回学習会『自閉症体験型研修』	飯田橋セントラルプラザ	1　名
2025/10/14 ～15	聖ヨハネ会障害福祉部門　職員研修	山中・雪の聖母修道院	2　名
2025/11/5 ～12/24	令和 7 年度 福祉職のためのメンタルヘルス研修 『自分自身の心のセルフマネジメント』	収録型 WEB 研修	9　名
2025/11/5 ～12/24	苦情解決担当者研修 ～事業経営の視点から苦情解決のあり方を考える～	収録型 WEB 研修	1　名
2025/11/5 ～12/24	令和７年度　ハラスメント防止研修 ～介護・福祉現場における利用者等からのハラスメントを中心に～	収録型 WEB 研修	2　名
2025/11/6	令和７年度　多摩府中保健所 食品衛生実務講習会	調布市文化会館たづくり	3　名
2025/11/14	障害福祉サービスの概要と給付費請求業務の 基礎知識・情報交換会	滝乃川学園	1　名
2025/11/15	令和７年度　実践報告会	大泉福祉作業所	2　名
2025/11/19	労働契約等解説セミナー	収録型 WEB 研修	2　名
2025/12/9	自衛隊から学ぶ災害時の行動と備え	飯田橋セントラルプラザ	2　名
2025/12/18 ～2/13	令和７年度東京都サービス管理責任者実践研修	講義：オンライン研修 演習：府中の森芸術劇場	1　名
2026/1/5 ～1/29	令和７年度強度行動障害支援者養成研修 実践研修	講義：オンデマンド配信 演習:：集合型　LINK FOREST	1　名
2026/1/11	上級救急講習	立川防災館	1　名
2025/1/13 ～2/13	令和７年度工賃アップセミナー　応用編	オンライン（ライブ配信）	1　名
2026/1/17 ～2/20	2025 年度　自閉スペクトラム症オンデマンド講座 思春期・青年期・成人期を豊かに、そのひとらしく生きる為に	収録型 WEB 研修	5　名
2026/1/22 ～3/12	令和７年度　高齢知的障害者の認知症とその支援	収録型 WEB 研修	8　名
2025/1/23	意思決定支援（支援付きに向けて現場の支援で知っておきたいこと　Part２	zoom を使用したオンライン研修	1　名
2026/1/30	令和７年度 第２回　部内研修	清瀬聖ヨハネ支援センター	6　名
2026/1/30	それぞれが豊かに歳を重ねるための支援～高齢期の心身機能の変化への対応と意思決定支援を学ぶ～	国立オリンピック記念青少年総合センター	1　名
2026/2/27	「【支援記録】これだけは知っておきたい支援記録の不適切語・要注意語」	zoom を使用したオンライン研修	6　名
2026/3/9	福祉事業におけるカスタマーハラスメント対応	飯田橋セントラルプラザ	1　名

拠点区分名：障害福祉部門　清瀬

ⅩⅡ　事業所名　　：清瀬聖ヨハネ支援センター
サービス区分名　　：生活介護事業

【2025 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3 月末)	1 日平均 利用者数	利用率 (R7 年度)	利用率 (R6 年度)	利用率 (R5 年度)
生活介護	20 人	22 人	18.8 人	94.0%	100.9%	102.6%

平均年齢　　49.1 歳（最高　70 歳　最低　24 歳）
男女比率　　13 名（男子）　：　 9 名（女子）
平均在所期間　8.2 年(最長　　12.6 年)
年間入所　　4 名　　年間退所　　3 名

【職　　員】

	令和 7 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						令和 8 年 3 月 31 日の職員数		
				正規職員		非正規職員		合計				
	正規職員	非正規職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正規職員	非正規職員	合計
管理者	1		1							1		1
サビ管	1		1							1		1
生活支援員	3	9	12			2	1	2	1	3	10	13
調理員		1	1								1	1
医師		1	1								1	1
看護師		2	2								2	2
合計	5	13	18			2	1	2	1	5	14	19

【施設運営状況】

2025 年度は、3 名の方が退所され、4 名の方が入所された。定員数 20 名は保たれ 22 名の方が利用されているが、利用率は 100%を切ることもあった。その為、新規の受け入れや特別支援学校の先生に若干の受け入れができることを伝えている。

【利用者支援状況】

2025 年度も利用者の退所や入所が見られたが､利用されている方の混乱はなくスムーズに通所できていた。また、イベントに関しても地域のお祭りや新しい場所で展示会を開催することが出来、幅広く活動できた。

【施設整備状況】

・エアコン 1 台交換　　・厨房　アイスメーカー購入
・タブレット PC 購入　　・車椅子体重計購入

ⅩⅢ　事業所名　　：清瀬聖ヨハネケアービレッジ（4ユニット）
サービス区分名　：共同生活援助事業　（介護サービス包括型）

【2025年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R7年度)	利用率 (R6年度)	利用率 (R5年度)
下清戸1	7人	7人	6.9人	98.7%	99%	100%
下清戸2	7人	7人	6.1人	87.7%	100%	100%
中清戸1	7人	6人	6.5人	92.6%	100%	100%
中清戸2	7人	6人	6.6人	94.8%	96%	100%

平均年齢　　51.3歳（最高　70歳、最低　24歳）
男女比率　　13（男性）：　　13名（女性）
平均在所期間　11.6年（最長　19.6年）
年間入所　　4名　　年間退所　　4名

【職　　員】

	令和7年4月1日の職員数			年間退任・就任						令和8年3月31日の職員数		
				正規職員		非正規職員		合計				
	正規職員	非正規職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正規職員	非正規職員	合計
管理者	1		1							1		1
サビ管	1		1							1		1
世話人 生活支援員	12	15	27			3		3		12	18	30
合計	14	15	29			3		3		14	18	32

【施設運営状況】

今年度、清瀬聖ヨハネケアービレッジとして5名の方が退所され3名の方が入所された。空いている部屋に関しては、1名入所が決まっている。運営としては可能な限り素早く行動し空きの期間が短くなるようにした。残り1部屋についても話し合い中。

【利用者支援状況】

今年度も昨年度に続き感染症対策を行った。

今年度、3月の上旬に下清戸にて発熱者が複数名出た。幸い一か月程度で落ち着き普段の生活に戻ることが出来た。

利用者の重度高齢化は進んでおり、利用者個々に適した住処を探していくケースも見られ始めている。また、国の方針として65歳から介護保険サービスへ移行することから今年度は3名の方が退所された。ご家族や関係機関と連携を取りながら利用者個々に適した住処を探したが、ご

家族の希望する条件の場所が見つからないことや、見つかった場合でも他事業所に入所できないなどスムーズに行かないことが見られる。今後も早め早めの対応をしてご家族・関係者と情報を共有しながらスムーズに移行できるようにしていく。

7月上旬から中清戸利用者による他利用者への他害行為が続く。職員が間に入る形で対応したが他害行為はおさまらず、興奮時に物損などから職員での対応が困難となり、ご家族・相談支援員に連絡。他事業所の1室を利用し対応。2週間後、他害行為や興奮状態が継続。関係者会議を何度か行い薬調整の為、入院となる。1か月後の退院直後に他害行為があり、話し合いの結果、他事業所1室を利用し支援。その後、関係者会議にて今後の他害行為があった際対応等についての確認を行い、11月上旬に中清戸に戻る。1月下旬他害行為があり。対応をするがおさまらず自宅へ帰宅。翌日、通院し薬調整の為入院。退院後退所となる。

1名は高齢化に伴い退所。

今年度は4名の方が新しく入所されトラブルなく元気に生活している。

【施設整備状況】

なし

ⅩⅣ　事業所名　　：清瀬聖ヨハネ短期入所
サービス区分名　：短期入所事業

【2025年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R7年度)	利用率 (R6年度)	利用率 (R5年度)
短期入所	2人	―	0.3人	14.2%	24.9%	20.9%

昨年度に引き続き感染症対策をしながら男性1床・女性1床で運営。

男性は定期的に利用されている方がいるが、年単位で見ると男女ともに利用率が低い。その為、今後は短期入所を行っていることの周知や様々な方に利用して頂き利用率の向上を図っていきたい。

教育研修　清瀬

日時	研修名	会場	出席者
2025/4/2	聖ヨハネ会障害福祉部門 採用時職員研修	富士聖ヨハネ学園	1　名
2025/5/21	都通研第１回研修会　「本当の想いを引き出し実現する　　～私たちが目指す意思決定支援～」	国立オリンピック記念成青少年総合センター	1　名
2025/6/20	東社協 知的発達障害部会 「令和７年度 本人中心支援(新任職員向け)研修」	渋谷区りばぁさいど原宿	1　名
2025/6/26	令和７年度第１回虐待防止・権利擁護研修	Ｚｏｏｍウェビナーによる配信	1　名
2025/7/1 ～9/10	令和 7 年度東京都障害者虐待防止・権利擁護研修	講義　オンデマンド　7/1～7/27 演習　オンライン　８月～９月	3　名
2025/7/16	令和７年度東京都グループホーム制度施策について	Ｚｏｏｍウェビナーによる配信	2　名
2025/7/17	厚生労働省『身体拘束廃止・防止の手引』の解説	オンデマンド配信	1　名
2025/8/1 ・9/5	令和７年度　三年目職員研修	飯田橋セントラルプラザ	1　名
2025/8/28	令和７年度　第２回　虐待防止・権利擁護研修 （身体抑制等適正化に向けた内容含む）	Ｚｏｏｍによるオンライン研修	1　名
2025/8/29	令和７年度 第１回　部内研修	緑町聖ヨハネケアービレッジ	3　名
2025/9/8	対人支援に関わるすべての人へ 「支援の基本は安心感」　　～アタッチメント理論の視点から改めて理解する安心感のケア～	国立オリンピック記念青少年総合センター	1　名
2025/9/12	東社協 知的発達障害部会 通所施設分科会 令和７年度 第１回合同学習会　『医療と支援』	飯田橋セントラルプラザ	1　名
2025/9/17	知的障害・発達障害のある方への口腔ケアについて考える	Microsoft Teams によるオンライン配信	1　名
2025/9/18	令和７年度 第２回学習会『自閉症体験型研修』	飯田橋セントラルプラザ	1　名
2025/9/19 ～9/30	令和７年度第３回共同生活援助事業者説明会	オンデマンド配信	1　名
2025/9/19 ～9/30	令和７年度第３回短期入所事業者説明会	オンデマンド配信	1　名
2025/10/4	『重度障害の方の声を聞く』 介助付きコミュニケーションを通した対話	飯田橋セントラルプラザ 12 階	1　名
2025/10/20	令和７年度　虐待防止研修	ひだまりの里	1　名
2025/10/20	採用時職員研修	小金井聖ヨハネ支援センター	3　名
2025/10/23	「知的障碍者の医療場面での意思決定支援」 ～福祉現場でできる工夫と支援のあり方～	飯田橋左官工業ビル８階	1　名

２．高齢福祉部門

【事業概況】

①経営・組織体制の立て直し ②桜町聖ヨハネホームおよび桜町高齢者在宅サービスセンターの建て替えに向けた方針検討を大きな取り組むべき柱として事業運営に取り組んだ。

経営面においては、各事業数値目標を定め、定期的にモニタリングを行ない目標達成を目指してきた。ヨハネホームにおいては、入所者数が増加し目標の在館 100 名を継続的に維持できる状況が整いつつある。在宅サービスにおいては、特に通所介護の利用率確保が難しく、見学希望や新規依頼は継続的にあっても、同時に様々な理由による終結者が多い状況があり、認知症対応型通所介護については、一般型通所介護との単価の違いからより目標達成がより難しい状況である。訪問介護事業については、人員確保が難しくニーズはあってもそれを受入れる体制が整わない現状があり数値を伸ばせないでいる。

組織体制の立て直しについては、ヨハネホームの人員体制は、新入職員研修の実施や役職者（教育育成担当者）の配置により人財の定着は確実にすすみ、適正な人員配置に近づきつつあるが、まだまだ派遣職員や紹介職員、日雇い職員を活用しながらの運営が続いているため、1 日も早い脱却を進めていく必要がある。組織体制の立て直しには不可欠なヨハネホームの施設長人事については、長年理事長に兼務していただいてきたが、2026 年 4 月から新たな施設長を配置できることとなった。2026 年度にプレ運用を開始する人事考課制度や職員研修の中で、職員の定着を含めた人財育成を進め、働きがいのある職場風土づくりや統一したケアの実践等の実現に向けてた取り組みの継続が必要である。

本町高齢者在宅サービスセンターの次期指定管理協定（R8～R12）については、書類審査、プレゼンテーション審査の結果、小金井市から選定され指定管理委託が 5 年間継続となったが、食の自立支援事業は中止となり、厳しい経営状況の通所介護事業のみの事業運営となったため、桜町センターを含めたご利用者の ADL に応じた住み分けを検討する必要がある。

ヨハネホームの建て替えについては、具体的な方針が定まり切れずにいるが、R8～R10 年度の中期経営計画に示したとおり、桜町病院の空きスペースを活用した建替えを進めていく計画を立てた。計画を進めるにあたっては、病院の介護施設への一部転換や補助金を含めた資金の問題など、様々な問題があるが、法人内での協議や行政への相談や申請を行いながら、建て替えを実現していく。

Ⅰ　桜町聖ヨハネホーム
（指定介護老人福祉施設・短期入所生活介護）

【2025 年度 利用状況報告】

種　別	定　員	1 日平均 利用者数	利用率 (2025 年度)	利用率 (2024 年度)	利用率 (2023 年度)
介護老人福祉施設	106 名	90.1 名	85.1%	75.5%	86.0%
短期入所生活介護	9 名 (内空床利用 5 名)	3.5 名	38.8%	50.3%	72.5%

平均年齢　　88.2 歳（最高 106 歳、最低 63 歳）

男女比率　　1：4（2026 年 3 月 31 日現在：104 名　内 入院 6 名）

平均在所期間　2 年 11 ヶ月（最長 17 年 6 ヶ月）

年間入所　46 名　（2024 年度入所：19 名・2023 年度入所：25 名・2022 年度入所：45 名）

年間退所　28 名　（2024 年度入所：26 名・2023 年度入所：23 名・2022 年度退所：50 名）

【職　員】

	2025 年 4 月 1 日 の職員数			年間入職・退職						2026 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				入職	退職	入職	退職	入職	退職			
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
医　師	0	3	3	0	0	0	2	0	2	0	1	1
生活相談員	2	1	3	0	0	0	1	0	1	2	0	2
介護支援専門員	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2
介護職員	20	13	33	11	7	3	7	14	14	24	9	33
看護職員	2	2	4	1	1	0	2	1	3	2	0	2
機能訓練指導員等	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2
管理栄養士	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2
調理員	4	6	10	0	0	1	0	1	0	4	7	11
事務職員	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2
生活サポート	0	10	10	0	0	0	2	0	2	0	8	8
用務員	1	0	1	0	0	1	1	1	1	1	0	1
合　計	34	39	73	12	8	5	15	17	23	38	29	67

※上記表には管理宿直員含まず

※派遣職員　2026 年 3 月 31 日現在　10 名

※日雇職員　2025 年度　延べ 1,109 名

【労災状況等】

◎業務労災　3 件

◎通勤労災　0 件

＜重点的取り組み結果＞

・桜町聖ヨハネホームの入所希望者を多く受入るため、入所稼働率の向上や人財確保、離職率の低下等に取り組み、稼働率向上（9.6%増）と光熱水費等の経費を抑えながら運営・経営の安定化を図った。
・定期的（3 ケ月毎）な経営分析を行い、運営会議や職員会議等で経営状況を職員全体に周知し、職員の状況理解や運営面・経営での戦略を練ることで稼働率向上や人件費削減など経営改善に一定の成果が得られた。
・新たな取り組みとして職員紹介制度や外国籍職員（特定含む）の採用を積極的に行い、職員交流会など実施し親睦を深めるなど努めた。
・LINE　WORKS を導入し、ルールに則りビジネスチャットを活用した情報周知及び開示を積極的に行い全職員への情報共有の強化につなげた。
・新規採用時オリエンテーションや新規採用職員研修を見直し、入職後安心かつ円滑に業務に入れるような体制構築に取り組んだ。
・介護主任を各フロアー2 名体制にし、ケアやサービスの充実や組織体制を強化しルール化や課題解決に向けた取り組みが円滑に行えるような基盤形成を行った。
・運営上リスクが招じる可能性が高い問題などは管理者がトップダウンで指示を出し、リスクマネージメントの徹底に努めた。
・感染症や災害時 BCP について役職者を中心に周知し、BCP を意識した委員会での協議や訓練などを実施できるよう図った。

●財務状況について　（単位：千円）

	2025 年度	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度
当期資金収支差額	17,364	16,909	▲2,121	▲29,582	10,287
当期事業収支差額	30,139	▲26,492	▲16,308	▲46,072	▲1,513
人件費率	71.7%	87.2%	81.8%	82.4%	74.7%
修繕費	5,208	4,427	3,748	3,569	5,908
減価償却費	36,883	38,756	34,123	29,188	28,435

＜重点的取り組み結果＞

・ここ数年の当施設の経営状況は厳しい状況が続いていたが、2025 年度は事業活動計算書上で経常増減差額前年度比で 6 千 611 万円増の 962 万 2 千円となり、大きく改善された。
・改善の主な要因として、サービス活動収入は利用率の向上などにより前年比 13.4%の増加、人件費は前年比で 5.2%減額となり、人件費率も派遣職員などの減少等により前年度 87.2%から 71.7%に大きく改善したことなどである。
・2025 年度の資金収支計算書上では当期事業収支差額が 3 千 13 万 9 千円で前年度比 5 千 663 万 1 千円増加となり、減価償却費積立資産取崩収入 1 千 587 万 8 千円と拠点区分長期借入金返済支出 1 千万円の返済があったが、当期資金収支差額は 1 千 36 万 3 千円であった
・利用率について 2025 年度は上昇したものの目標値に大きく届いておらず、人件費ついても派遣職員費など依然として大きいため、次年度以降も利用率 95%、離職率の低下や働きやすい職場環境を整備するなど人件費率 70%以下を目指し、物価高などの影響もあることからより安定した運営・経営状況となるよう職員一同取り組んでいく。

●利用者支援状況

＜2025 年度施設目標＞

桜町聖ヨハネホームを生活の場とされているご利用者様の多様化するニーズに対応したサービスを多職種連携の下、誠意をもって提供する。(サービス)

＜重点的取り組み結果＞

・特養待機者のニーズに応えるべく稼働率の向上に努め、医療ニーズの高い方や社会的困窮者も多職種間で協議し積極的に受け入れを行った。
・行事委員会を中心に施設内行事（敬老会、クリスマス会等、豆まき）や初詣外出、府中市朝日町や味の素スタジアム近辺の花見バスツアーなどの外出イベントなどを企画しご利用者に喜んでいただけるよう取り組んだ。
・日常生活支援施設として、施設ケア会議や職員会議等と通じて多職種が連携できるようルール化や協議を行いタイムリーな運営改善に取り組んだ。
・組織として情報共有に課題があったが、LINE　WORKS の導入によりご利用者の情報共有やマニュアルの周知などが円滑となり課題解消につながった。
・普通救命講習を実施し、職員全体の 50%が取得したことで小金井市の高齢者施設として初めて救命講習受講優良証交付事業所を申請し認定された。
・終末期のご利用者に関しては、ACP に沿ってご利用者やご家族に寄り添った看取りケアが提供できるように職員努めた。
・終末期のみならず急変時の対応についても、ご利用者、ご家族の意向確認を行い、施設方針として回復の見込みがある状態の応急手当の徹底を統一した。
・新型コロナウィルスや風邪のような症状の集団感染が発生したが、多摩府中保健所や桜町病院の感染制御実践看護師と連携し、情報共有や標準予防策の徹底等、早期終息につながるような実践を行った。
・地域住民と職員合同の防災訓練や普通救命講習を開催し、災害時等の相互協力関係の構築に尽力した。
・地域の保育園や小中学校、一般ボランティアの受け入れを積極的に行い、更に地域のニーズに応えられるよう図った。

●短期入所生活介護事業

＜重点的取り組み結果＞

・前年比では利用率は低下しているが、できるだけ稼働率向上のため同法人や他事業所の居宅介護支援センターや包括支援センターの利用希望に応えられるように取り組んだ。
・緊急ショートステイの受け入れについて、ご利用者は女性 4 名、男性 11 名の計 15 名。延べ利用日数は 158 日であった。(前年度 女性 7 名、男性 14 名 計 21 名 延べ利用日数 143 日)
・緊急での主な利用目的は介護者の急な入院や手術など、介護者が不在になったケースが多かった。
・他の利用目的として、家庭内暴力からの一時避難、本人の体調不良による ADL の急激な低下で家族が介護できない、認知症が進み独居が厳しくなった等が挙がり、家庭内暴力から一時避難をしたことでご本人とご家族と程よい距離感が保たれて、介護者のストレス緩和が図られた様子がある。
・緊急ショートステイでの利用から、リピートでの利用など新規サービス利用者や特養へのスライ

ド入所などの移行ケースも見受けられた。

・桜町センターや本町センターのご利用者の受け入れを法人内で情報共有しながら連携強化しながら促進した。

【Ⅰ】入所ご利用者の寝たきり度・認知症自立度について　2026.3.31 現在　単位(人)

寝たきり度

	J	A	B	C	計
男性	1	6	12	2	21
女性	0	27	42	14	83
合計	1	33	54	16	104

「障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」

ランクＪ　何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。

ランクＡ　屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出できない。

ランクＢ　屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体である。

ランクＣ　１日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。

【Ⅱ】認知症自立度

	自立	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	M	計
男性	0	1	10	9	1	0	21
女性	1	4	25	41	12	0	83
合計	1	5	35	50	13	0	104

「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」

ランクⅠ　何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。

ランクⅡ　日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。

ランクⅢ　日常生活に支障を来たすような症状･行動や意思疎通の困難さが見られ､介護を必要とする。

ランクⅣ　日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。

ランクＭ　著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

〔Ⅲ〕入所ご利用者の要介護度の状況について（前年度末：比）

	≪2025.3.31 現在≫	≪2026.3.31 現在≫	
	男 性	男　性	前年同日比増減
要介護１	0 名	0 名	±0 名
要介護２	0 名	0 名	±0 名
要介護３	6 名	5 名	－1 名
要介護４	2 名	12 名	＋10 名
要介護５	4 名	4 名	±0 名
合 計	12 名	21 名	＋9 名

	≪2025.3.31 現在≫	≪2026.3.31 現在≫	
	女　性	女　性	前年同日比増減
要介護１	1 名	2 名	＋1 名
要介護２	6 名	4 名	－2 名
要介護３	10 名	16 名	＋6 名
要介護４	32 名	35 名	＋3 名
要介護５	24 名	26 名	＋2 名
合 計	82 名	83 名	＋1 名

●食事サービス

＜重点的取り組み結果＞

・近年の食材料費等の物価高騰の波が押し寄せており、ご利用者の栄養管理を重視し、食事の内容を変更する事はせず、献立や仕入れ業者と協力し食費を上げずに取り組んできたが、値上げも多くなり 11 月から食費を値上げせざるをえなかった。

・多職種と連携し嚥下調整食やとろみの提供を行い、誤嚥性肺炎の予防、低栄養高リスク者の削減など ADL の維持に繋がるよう務めた。

・ご利用者様の生の声を聴くために、利用者懇談会での聞き取りや、満足度アンケートを実施。集計をして日々の献立に反映させた。

・手作りケーキを数種類とコーヒーや紅茶を提供するさくらカフェを毎月開催した。コロナ化で外出制限などのストレスを少しでも緩和出来るようにと始動し、毎回大変喜ばれている。
また、カフェが開催出来ない時はドリンクバイキングを実施するなど工夫を凝らした。

・毎月、誕生日のお祝い膳を提供や、季節に合わせた行事食を提供しご利用者が季節感を感じ楽しんでいただけるよう努めた。

●施設設備整備状況

＜重点的取り組み結果＞

・開設 39 年が経過し、経年劣化による入浴設備やエレベーターの改修、ボイラーの修繕、ご利用者のベッドの入れ替え等を積極的に行った。

・耐用年数を超過したものも多く、優先順位の高い設備機械の工事・更新や修繕については設備会議等で協議しご利用者や職員の業務に影響がないように行った。

・施設設備整備について活用できる補助金の申請を積極的に行い、車いすや霞会館の助成金による個浴の入れ替えや次年度予定の共同募金会のベッド入替え助成金、東京都のゼロエミッションによる省エネ冷蔵庫（厨房機器）の助成金の決定につなげた。

・その他にも車いすや建物設備に関しては、出来るだけ職員で可能なものは早急に修繕するなどご利用者などに負担が掛からぬよう対応した。

【Ⅰ】主な固定資産取得（建物取得・器具及び備品・ソフトウェア）

● 4月	エレベーター改修工事	13,860,000円
● 5月	電動ベッド2台	499,840円
● 6月	エアコン入替え（ばら1号室）	451,000円
●	勤怠管理ソフト導入（サーバーエクシード）	423,723円
● 7月	エアコン入替え（厨房食品庫）	128,799円
● 8月	電動ベッド10台	1,443,000円
● 11月	平行棒（機能訓練用）	133,210円
● 1月	配膳車（厨房）	495,000円
	2階個浴槽・昇降ユニット入替え	1,578,500円
● 2月	1階・2階汚物除去機・専用鉄架台	2,112,000円
● 3月	2階個浴槽・昇降ユニット入替え（霞会館助成）	1,578,500円

【Ⅱ】主な修繕費支出

● 8月	給湯1次ポンプ交換工事	297,000円
● 10月	1・2階個浴　トイレ撤去・換気扇工事	396,000円
● 11月	食器消毒保管庫　扉破損修理	142,626円
● 12月	施設入口電気錠交換	114,400円
● 1月	消防設備改修工事	288,450円
	厨房ガスコンロ修理	187,000円
● 2月	中庭高木剪定及び緑地整備	935,000円
	パネルヒーター用温水循環ポンプ	352,000円
	汚物処理機修理	106,920円
	1・2階汚物処理機土台撤去工事	403,700円
● 3月	地下ボイラー室給湯配管漏水工事	264,000円
	地下機械室受水槽室フレキシブル継手交換工事	338,800円
	食堂厨房内配管修理	140,800円
	職員通用口鍵交換	104,500円

●研修参加及び実施状況

＜重点的取り組み結果＞

・法定研修と実践的な研修を施設内研修として計画的に行った。

・職員のモチベーションやスキルの向上のため外部研修に積極的に派遣し、職員会議などで他職員に伝達研修を行うような仕組みを構築した。

＜外部研修＞

No.	研修名	主催	場所	日程	参加者
1	栄養管理報告書の作成方法及び新システムを用いた提出方法	多摩府中保健所	配信	5月	管理栄養士
2	食品衛生（夏の食中毒予防）について	多摩府中保健所	配信	6月	調理職員
3	福祉用具サービス事務従事者講習会　計３回	東京都福祉保健財団	研究社英語センタービル	6月	介護職員 業務推進係長
4	拘縮が強い利用者の進行させない､拘縮予防と有効なポジショニング	全国高齢者施設看護師会	研究社英語センタービル	6月	機能訓練指導員
5	北南ブロック生活相談員研修	東京都高齢者福祉協議会	特別養護老人ホームよつや苑	6月	生活相談員
6	特別養護老人ホーム施設長会	小金井市高齢福祉課	小金井市役所本庁暫定庁舎	7月	施設長代行
7	ヒヤリハット事例を交えたリスク管理の重要性と福祉用具を使った安全で質の高いケア	全国高齢者施設看護師会	研究社英語センタービル	7月	機能訓練指導員
8	業務継続計画の実効性を高めるHUG及びKIZUKIのファシリテーター要請研修	東京都高齢者福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	8月	ケアマネ 介護職員 業務推進係長
9	北南ブロック生活相談員研修	東京都高齢者福祉協議会	特別養護老人ホーム明日に架ける橋	8月	生活相談員
10	移乗　トランスファボードとスライディングシート	東京都福祉保健財団	新宿第一生命ビルディング	11月	介護職員
11	CARE　EXPO2025	リコージャパン(株)	立川センタービル２階	11月	事務管理室長 業務推進係長
12	排泄の仕組みと福祉用具	東京都福祉保健財団	新宿第一生命ビルディング	1月	介護職員
13	北南ブロック生活相談員研修	東京都高齢者福祉協議会	特別養護老人西砂ホーム	2月	生活相談員
14	北南ブロック会	東京都高齢者福祉施設協議会	特別養護老人ホーム砂川園	3月	事務管理室長
15	特別養護老人ホーム施設長会	小金井市高齢福祉課	特別養護老人ホームぬく井の杜	3月	施設長代行

＜施設内研修＞

No.	研修名	日程	参加者
1	感染症、食中毒の予防（感染症蔓延防止対策）	6 月	全職員
2	デマンドの研修	7 月	全職員
3	BCP 訓練研修（避難誘導訓練と炊き出し訓練）	7.8 月	全職員
4	介護・福祉職の相手との関係性を築くコミュニケーション技術	9 月	全職員
5	ターミナルケア研修（オンライン）	9 .10 月	全職員
6	第 1 回身体拘束・虐待防止研修	10 月	全職員
7	BCP 訓練研修（消火器訓練）	10.11 月	全職員
8	施設職員向け福祉用具講習	10 月	全職員
9	感染症蔓延防止・ガウンテクニック訓練研修	11 月	全職員
10	ハラスメント防止研修	12 月	全職員
11	第 2 回身体拘束・虐待防止研修	1 月	全職員
12	認知症研修	1 月	全職員
13	緊急時対応研修（普通救命講習会）	2 月	全職員
14	勤怠管理システム研修（3 日間）	2 月	全職員
15	第 1 回・第 2 回事故予防に関する研修（リスクマネジメント）	3 月	全職員

Ⅱ　桜町高齢者在宅サービスセンター

通所介護・訪問介護・訪問入浴介護・居宅介護支援・小金井市委託事業

栄養事業（給食・食の自立支援）

小金井きた地域包括支援センター　(小金井市委託事業・介護予防支援)

【2025 年度利用状況報告】

種別	種別	定員	年間延定員	延べ利用者数	1日平均利用者	利用率（2025年）	利用率（2024年）	利用率（2023年）
介護保険事業	通所介護（一般）	35名/日	10,710	7,355	24.0	68.7%	69.5%	64.5%
	通所介護（認知）	24名/日	7,344	3,876	12.7	52.9%	60.5%	59.6%
	通所介護（総合事業）	10名/日	2,650	2,549	10.5	96.2%	60.1%	60.1%
	訪問介護	90名/週	4,590	3,747	12.2	81.6%	87.2%	99.0%
	訪問入浴	3名/週	153	121	2.3	79.1%	85.6%	85.6%
	居宅介護支援	165件/月	1,980	1,861	155/月	94.0%	96.6%	101.1%
	予防･総合事業プラン	320件/月	3,840	4,191	349.2/月	109.1%	112.3%	109.9%
栄養事業	給食	39食	11,934	11,159	36.5	93.5%	102.2%	97.7%

【利用者の動向】

通所介護・認知症通所介護の要介護度の状況

①　通所介護（一般・総合事業）

2025年度	事業対象	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	266	1,462	1,087	3,805	2,155	1,201	124	0	10,100
割合	2.6%	14.5%	10.8%	37.7%	21.3%	11.9%	1.2%	0.0%	100.0%
2024度	事業対象	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	452	1,796	1,294	3,939	1,839	1,229	359	0	10,908
割合	2.9%	11.3%	7.6%	42.2%	20.2%	11.2%	4.6%	0.0%	100.0%

②　認知症対応型通所介護

2025年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	644	906	1,013	972	341	3,876
割合	0.0%	0.0%	19.3%	23.4%	26.1%	25.1%	8.8%	102.7%
2024年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	576	1,070	1,306	896	598	4,446
割合	0.0%	0.0%	21.2%	29.8%	18.1%	13.6%	17.3%	100.0%

【職員】

	2025年4月1日の職員数			年間退任･就任						2026年3月31日の職員数		
				正職員		非常勤職員		合計				
	正職員	非常勤職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正職員	非常勤職員	合計
センター長	1名		1名							1名		1名
事務長			0名									0名
介護員	1名	12名	13名				1		1	1名	11名	12名
相談員	10名	1名	11名	2	2		1	2	3	10名	0名	10名
看護師		6名	6名								6名	6名
介護支援専門員	3名	4名	7名				2		2	3名	2名	5名
訪問介護員		7名	7名								7名	7名
運転員		4名	4名			1	1	1	1		4名	4名
栄養士	3名	1名	4名		1				1	2名	1名	3名
調理･補助･宅配		3名	3名				2		2		1名	1名
機能訓練指導員		2名	2名								2名	2名
事務員		2名	2名			1	1	1	1		2名	2名
高齢住宅管理人		6名	6名								6名	6名
清掃員		2名	2名								2名	2名
合計	18名	50名	68名	2	3	2	8	4	11	17名	44名	61名

【施設運営状況】

（1）財務について

2025年度も財務改善に向けて利用率回復・維持に取り組んだ。感染症による利用率への影響は、ほとんどみられなかった。

各事業がアピールポイントを全面に出し、ご利用者のニーズに少しでも応えられるようサービスの提供、新規利用者の獲得に取り組んだ。人財の確保が困難を極め、訪問介護や居宅介護支援事業においては、ニーズはあっても利用を断らなくてはならない状況があった。

桜町センター全体の事業活動収入は273,056千円で、2024年度値284,181千円に対して前年比マイナス11,125千円の収入実績、事業活動支出は275,060千円で、2024年度値270,388千円に対して前年比4,672千円の支出増であった。

結果、2025年度桜町高齢者在宅サービスセンター事業全体の当期資金収支差額は2,843千円の赤字、当期活動増減差額は7,157千円の赤字となり、非常に厳しい結果となった。

収支状況の総括は下記の通りである。

① 認知症対応型通所介護の利用率確保が非常に厳しい状況であった。
（利用単価が高いことや利用すべき方が利用に結びつかない問題）
② 訪問介護事業の人員不足による利用率の低迷
③ 居宅介護支援（ケアマネ）の人員体制が整わないことによる担当ケースの減少
④ ベテラン職員が多いことによる人件費（率）の増加
⑤ ボイラー、給水配管の老朽化による修繕費の増加
⑥ 燃料費（重油・ガソリン)、給食費（食材費）等の高騰

（2）組織力向上・人材育成への取り組み

組織力向上・人材育成については、経営会議・運営会議・職員会議を中心に職員面談や様々な場面での OJT を通して取り組んできたが、係間や職員間の組織的な連携が不足している点は引き続き大きな課題である。今後は人事考課制度の中で組織力強化・人材育成に取り組んでいく。

1）センター長による職員面談の実施
2）係長による職員面談の実施
3）職員会議での課題に対するグループワーク
4）フィッティングサポートの継続的実施
5）小金井市介護事業者連絡会への参加
6）永年勤続表彰の実施
7）人事考課制度導入への取組み

（3）サービスへの取り組み

※【利用者支援状況で取り上げ】

【利用者支援状況】

（1）リスクマネジメント

1）利用者事故発生事例

報告すべき大きな事故の発生はなかった。

2）ヒヤリハット

通所介護係では、2025 年度も年間を通してヒヤリハット事例を報告し、ミーティング内で事例の共有・改善策を話し合ってきた。2024 年度に事例として挙がったヒヤリハットの分類と件数は下記の通りである。

・送迎（20 件）　・入浴（2 件）　・転倒・移動（8 件）　・服薬（1 件）
・食事（4 件）　・物品返却忘れ（5 件）　・他（17 件）

※事例の共有・改善策の実施は、事故や苦情を未然に防いでいると考えられる。また、職員の責任感や緊張感をもった対応にもつながっている。

3）苦情

・記載するレベルの苦情はなし。

4）感染症について

① 施設としての感染予防対応

・ご利用者様受入れの際の感染症予防対策の実施
・職員健康管理の徹底
・ボランティア等入館時の健康状態確認
・感染症マニュアルの更新

② 感染事例

・2025 年度は、新型コロナ感染症やインフルエンザによるクラスター的なことは発生しなかった。引き続き職員自身の健康管理、ご利用者の健康把握、他感染症予防対策につとめ、事業運営の支障が出ないように対応していく。

（2）サービスへの取り組み

施設重点取組事項の振り返り

1）通所介護・受託事業係

① 一般型通所介護・認知症対応型通所介護・総合事業通所型サービス

・利用率の低迷は昨年度を下回り、営業をするなどしたがなかなか数字に繋がらなかった。入浴対応の柔軟さを痛感し、年度終盤ではあるが曜日の固定を緩やかにしてアピールポイントに加えている。少しずつだが効果はあると思われる。今年度の数字には繋がらなかったが、来年度に繋げられたらと考えている。
栄養部にも見学時の昼食提供を協力いただくようにもなり、効果はあると思われる。
・職員の平均年齢は年々上がっており、入浴対応など体力的には厳しくなってきているが、認知症の方々への対応は上手く対応できる職員もいるため、桜町の強みとして安心して通所させられる場所、という認識をご家族に持ってもらえるよう継続して働きかけていく。
その反面、個性の強い職員もいるのが現状で、新入職される職員に対して厳しい態度を取ってしまう場面もある。態度によってはハラスメントの可能性もあるため、その辺りの懸念も含め必要時に個別面談を行い注意喚起していく必要を感じている。
・2026 年度は ICT 導入もあるため、少し軽減できる部分も出てくると思われる。相談員の仕事量も個人差はあるが、なかなか上手く捌けておらず。できる仕事は上手く分業するなど生産性向上の面でも考えていきたい。

② 地域支援事業 （小金井市受託事業）

＜やすらぎ支援事業＞

2025 年度末現在 5 名のやすらぎ支援員が登録しており、うち 1 名が訪問活動中である。現在 1 名のご利用者様が事業を利用されている。感染症予防対策を講じながらご利用者様のご自宅を訪問しての見守り、傾聴を実施した。また支援員とは、担当職員が常にご利用者様の状況確認や指導、情報交換を行っている。

また、認知症サポーター養成講座の事務局機能も委託されており、適切なオレンジリング・テキストの在庫管理、カードの発行作業を行った。

＜家族介護教室＞

「介護保険制度を知る」をテーマとして 2 月 10 日に 10 名の方が参加され開催した。介護福祉課の職員にもお手伝いいただき、中身の濃い内容となった。

＜サブスタッフ養成・活動事業＞

サブスタッフ養成事業」を 10 月～12 月に開催し、7 名の方が受講され今後サブスタフとしての活躍が期待される。

サブスタッフ活動については、今までに養成講座を卒業された計 6 名の方が、桜町センター総合事業通所型サービスの「サブスタッフ」として、ご利用者様支援のための活動を行った。

③ グリーンタウン高齢者住宅管理 （小金井市受託事業）

現在 70 世帯 85 名の入居者を対象に管理人 6 名で、月曜～土曜の日中帯に巡回や安否確認の管理業務を行っている。管理人とご入居者様との信頼関係は良好で、関係機関とも連携を密にとることで安全に安心して生活できる環境づくりに貢献出来た。

2）訪問サービス係

① 訪問介護事業

・訪問系介護サービスに従事しているヘルパーにとって猛暑への対策が不可欠をなってきている。東京都訪問系介護サービス暑さ対策緊急支援事業を活用して全ヘルパーに暑さ対策グッズを支給。利用者様には訪問中のヘルパーの熱中症予防のために、ヘルパーが水分補給する

ことや入浴介助時にマスクを外すことなどお知らせ文を作成しご理解いただいている。現在の人員体制は月別の常勤換算で最低基準に近いこともあり、ヘルパーの体調管理は大変重要な事業継続に不可欠な要素となっている。

・活困難者のニーズの中で介護保険では本来カバーできないが対応しないと生活に支障が出るような事例もあり、ケアマネや地域包括センター、権利擁護センターと情報共有して社会的なつながりのひとつとなれるように支援している。他、法令順守の上、対応が必要なニーズについてはケアマネージャーと相談の上、計画書にサービス内容として記載の上、利用者ニーズに応えることができている。

・年度の平均利用率が 81.6%と目標には遠く及ばなかった。人員体制の問題が大きく、年度末にフルタイムヘルパー1 名の健康上の休職予定があり、その交代要員はサービス提供責任者 2 名でほぼカバーする必要が生じたことから、利用終結した空枠を振替枠として調整するためにしばらく新規相談の受付を控えて対応。次年度の 4 月、5 月の月別の事業所常勤換算値が人員体制の最低基準値に迫る状況が予測される。登録ヘルパーは加齢により体調に応じて派遣件数を減らす傾向にあり、利用率の改善を図る以前に運営自体が継続できるような人員の強化が必要である

② 訪問入浴介護事業

2026 年 3 月末時点で利用者 1 名（医療依存度の高い、週 2 回利用）であるが、看護 2 名、介護 3 名の職員で運営を維持。機材や車両は消耗に応じてメンテナンスを行っている。
現利用者が終結した段階で、事業撤退の方針である。

3）居宅介護支援係

・研修計画でテーマを決めて出席することになっていたが、テーマに添うことよりもその時々出席可能な研修に出る、という形になってしまった。全体の雰囲気として通常業務が忙しいという理由で、研修参加には消極的だった。

・法人内事業所や地域の事業者と連携については、連絡ミスなどがあったが改善方法についてはなかなかよい案がない状況のままであったが、小平の居宅介護支援事業所と懇親会も兼ねて事例検討会を実施した。

・目標プラン件数に対しては、職員の退職に伴う補充ができなかった関係で、1 人の受持ち件数の上限が決められていることや新規のご利用者を受入れることができなかったことにより、月平均で 155 件（目標 165 件）ほどの結果となってしまった。

4）地域包括支援係　（小金井きた地域包括支援センター）

①「住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう関係機関と連携し支援する」ことに関して

医療と介護の連携会議や居住者支援協議会など関連機関の集まる会議棟には積極的に参加した。民生委員や近隣住民から心配な高齢者の情報をいただいた際には速やかに対応し、個人情報保護の範囲で対応の結果をご報告した。即解決できない場合には継続的なかかわりを行っている。通報いただいた方が安心・通報してよかったと思えるかかわりを心掛けた。認知症の相談には認知症支援推進員が中心となり対応。桜町オレンジカフェ、梶野町オレンジカフェを運営し認知症があっても参加できる居場所つくりを行った。また、地域のサロンのからの要請を受けて認知症になった後に自宅で生活を続けるためにどんな介護サービスを活用したらよいかと言った内容の講座を開催した。

②「効率的に業務を進められるよう、コミュニケーションを大切にし、働きやすい職場を目指す」に関して

職員の補充ができないまま経過。また直プラン数がますます増えている状態。それぞれの経験値がアップしたことで何とか仕事をこなしている状況が続いている。昨今の状況から新規採用がすぐできる状況とは言えない。今後も積極的に研修に参加してスキルアップすることで業務を遂行していく必要がある。あわせて効率の良い仕事の仕方を皆で共有するなど、業務の見直しも徐々に行えるとよい。

報連相については皆が徹底して行えている。今後は一歩先に進めて、それぞれが主体的に解決策を提案し、皆でブラシュアップできるような体制を作りたい。

③「安心して過ごせる居場所づくりと運営が円滑に行えるよう支援する」に関して

さくら体操や地域のサロンに定期的に巡回し、必要時には支援を行った。

生活支援コーディネーターが地域安全課とともに防災講座を 2 回開催した。幅広い世代に関心の高い防災をテーマにし、いろいろな世代がつながるきっかけづくりになるよう心掛けた。そこから発展し、法人の防災訓練に近隣自治会の方にもご参加いただくなど、活動に広がりを見せている。

桜町オレンジカフェ、梶野町オレンジカフェは活動が定着しており、毎回大盛況である。

さくら体操自主グループ、管理会場ともに参加者が多く、新規希望者にご案内できない状況が出てきている。今後、新規会場の開拓が望まれる。

④「利用者・家族の顕在化していないニーズを掘り起こし、適切なサービスに繋いでいく」に関して

総合相談の中で「病院から包括に行くように言われた」と包括が何をするところか分からない、または相談したいことがわからないままで来所されるケースが多々見られる。それとは逆に使いたいサービスが明確に決まっている方もいらっしゃいます。どちらの場合においても相談者の抱えるニーズを相談者自身にも気が付いていただけるよう、丁寧な聞き取りを心掛けている。そのうえで必要な提案をおこなった。

5）栄養係（在宅）

・給食会議や検食簿を通して、意見や要望等を献立に反映し、毎月の行事食等で利用者に喜んで頂けた。また、おやつレクも相談員やワーカーと協力し提供した。
・嗜好調査については、実施予定日を先送りにしてしまい、常勤職員の退職もあり調査表等を作成できず実施できなかった。利用者の食事中の喫食確認についても、配食の調理作業等もあり祝日稼働日にしか行えなかった。
・嚥下調整食の提供については特に問題無く行えた。
・適温給食の提供については桜町センターに限るが、通常 3F 厨房で盛り付けて 1F デイフロアで配膳しているが、カレーや焼き物等を温かい状態で 1F フロアに下して利用者の前で盛り付けをし、温かい状態での提供と盛り付けている所を利用者に見て頂いて目でも楽しんで頂けた。
・調理業務のマニュアル化や、保健所研修、他施設研修、その他の栄養士業務については人員体制が整わず実施できなかった。

2025年度　　在宅サービス部　利用実績集計表　　（桜町高齢者在宅サービスセンター）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	**通所介護**　営業日数	26	25	25	27	26	26	27	25	25	24	24	26	306
	1日　定員30名　（目標24名/日）	780	750	750	810	780	780	810	750	750	720	720	780	9,180
	実利用者人数	69	67	70	72	72	72	71	71	71	63	65	63	69
	延利用者数合計	639	608	615	700	676	642	677	594	573	508	534	587	7,353
	延利用者数（一般）	631	600	608	694	667	634	669	586	566	501	528	581	7,265
	延利用者数（現行相当型）	8	8	7	6	9	8	8	8	7	7	6	6	88
	登録者数		68	74	75	74	69	72	72	71	68	63		71
	新規者数	0	2	3	1	0	2	4	6	4	0	6	1	29
	終結者数	3	0	0	0	2	2	2	2	4	0	1	1	17
	月利用率	81.9%	81.1%	82.0%	86.4%	86.7%	82.3%	83.6%	79.2%	76.4%	70.6%	74.2%	75.3%	80.1%
	認知症対応型　営業日数	26	25	25	27	26	26	27	25	25	24	24	26	306
	1日　定員24名　（目標17名/日）	624	600	600	648	624	624	648	600	600	576	576	624	7,344
	実利用者人数	43	41	37	39	34	35	37	36	34	34	33	36	37
	延利用者数	373	351	325	352	301	305	324	318	300	290	280	348	3,867
	登録者数	43	44	43	41	40	37	40	44	42	37	36		41
	新規者数	1	0	0	1	0	1	4	0	1	1	0	2	11
	終結者数	1	4	0	3	2	0	0	3	0	2	2	2	19
	月利用率	59.8%	58.5%	54.2%	54.3%	48.2%	48.9%	50.0%	53.0%	50.0%	50.3%	48.6%	55.8%	52.7%
	総合事業通所型（市基準）　営業日数	21	20	21	22	20	20	22	18	21	19	18	21	243
	1日　定員10名（金20名）（目標7.5名/日）	250	250	250	260	250	200	220	180	210	190	180	210	2,650
	実利用者人数	31	31	30	26	27	26	25	27	27	27	27	28	28
	延利用者数	145	131	136	144	114	108	1225	111	121	103	103	115	2,556
	登録者数		33	32	32	32	29	29	29	31	29	30		31
	新規者数	0	0	0	1	0	1	2	1	1	1	0	0	7
	終結者数	0	0	2	0	0	1	0	2	0	0	1	1	7
	月利用率	58.0%	52.4%	54.4%	55.4%	45.6%	54.0%	556.8%	61.7%	57.6%	54.2%	57.2%	54.8%	96.5%
訪問入浴	**訪問入浴**　営業日数	4	5	4	4	5	4	5	4	4	4	4	4	51
	目標件数　3.0件/日　1日/週	12	15	12	12	15	12	15	12	12	12	12	12	153
	延入浴件数	14	18	14	9	10	12	5	9	10	7	3	8	119
	延清拭件数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	登録者数	3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2.0
	新規者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	終結者数	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	月利用率	116.7%	126.7%	116.7%	75.0%	66.7%	100.0%	33.3%	75.0%	83.3%	58.3%	25.0%	75.0%	79.1%
訪問介護	**訪問介護**　営業日数	26	25	25	27	26	26	27	25	25	24	24	26	306
	目標件数　90件/週	390	375	375	405	390	390	405	375	375	360	360	390	4590
	延派遣件数	302	337	337	370	334	328	315	287	305	264	271	297	3747
	訪問介護延件数	186	217	215	246	213	204	188	185	211	185	182	202	2434
	総合事業訪問型サービス延件数	104	107	102	102	99	108	109	87	84	74	74	80	1130
	自費訪問介護延件数	12	13	20	22	22	16	18	15	10	5	15	15	183
	登録者数	53	55	54	56	54	53	52	49	49	49	48	46	51.5
	新規者数	1	3	0	3	0	0	0	0	1	1	0	1	10
	終結者数	1	1	1	2	1	1	3	1	1	1	3	0	16
	月利用率	77.4%	89.9%	89.9%	91.4%	85.6%	84.1%	77.8%	76.5%	81.3%	73.3%	75.3%	76.2%	81.6%
居宅介護支援	**介護プラン作成件数**　**実績**	161	156	159	161	158	161	156	159	154	152	148	137	1862
	165件/月　新規者	4	1	4	6	5	6	4	5	4	2	1		42
	終結者	1	5	4	6	10	1	2	4	13	4	4		54
	介護プラン作成利用率	97.6%	94.5%	96.4%	97.6%	95.8%	97.6%	94.5%	96.4%	93.3%	92.1%	89.7%	83.0%	94.0%
	認定調査件数　他市含　4件/月	4	4	3	4	3	3	4	5	4	4	4	3	45
包括支援	**介護予防・総合事業プラン**件数計　320件/月	350	353	350	350	338	353	355	345	342	348	351	356	4191
	直営件数　255件/月	282	285	284	286	276	293	297	292	286	289	296	295	3461
	直営新規件数	6	8	6	10	4	14	8	7	9	9	8	7	96
	直営月利用率	110.6%	111.8%	111.4%	112.2%	108.2%	114.9%	116.5%	114.5%	112.2%	113.3%	116.1%	115.7%	113.1%
	委託件数　65件/月	68	68	66	64	62	60	58	53	56	59	55	61	730
	委託新規件数	0	0	2	2	1	0	0	0	3	4	1	3	16
	委託月利用率	104.6%	104.6%	101.5%	98.5%	95.4%	92.3%	89.2%	81.5%	86.2%	90.8%	84.6%	93.8%	93.6%
栄養事業	**市食の自立（受託）配食**　営業日数	25	24	25	26	25	24	26	23	24	23	22	25	292
	目標食数　4食/日	100	96	100	104	100	96	104	92	96	92	88	100	1,168
	利用者実人数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	延食数	74	72	75	78	75	72	78	69	72	69	66	75	875
	市食の自立配食月利用率	74.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	74.9%
	給食数　（通所昼）	1,002	951	931	1,046	958	936	993	901	881	814	820	926	11,159
ボラ	ボランティア総回数（生活）	39	39	41	38	40	47	44	37	42	45	43	44	499
	ボランティア 総回数（教養）	27	29	18	28	29	30	25	26	19	29	15	25	300

【施設整備状況】

（1）概況説明

設置後 35 年が経過しており、ボイラー・ポンプ・厨房機器など様々な設備・備品に修繕・メンテナンスの必要が出ている。また、パソコンなどの OA 機器の更新も必要であり、施設全体の状況を把握し優先度を決めたうえで計画的に整備を進めている。

（2）主な購入物品

①	2025 年 5 月	ノートパソコン 9 台購入	837,870 円
②	2025 年 5 月	ケースファイル 350 冊購入（包括）	196,109 円
③	2025 年 6 月	就業ターミナル SX200DW 購入	183,040 円
④	2025 年 12 月	ガス給湯器 3 台購入	484,550 円

（3）主な修繕費等

①	2025 年 4 月	受水槽 FM バルブ交換修理	194,700 円
②	2025 年 5 月	電気温水器交換工事	253,000 円
③	2025 年 5 月	真空温水ヒータ部品交換	107,800 円
④	2025 年 6 月	勤怠システム初期費用	423,722 円
⑤	2025 年 6 月	給湯温水循環ポンプ交換工事	206,800 円
⑥	2025 年 11 月	給湯配管ゴムフレキ修理	116,600 円
⑦	2025 年 12 月	ボイラー室給湯配管漏水修理	591,800 円
⑧	2025 年 12 月	受水槽加圧ポンプバルブ交換	215,600 円
⑨	2025 年 12 月	給湯温水ヒータ部品交換	520,300 円
⑩	2025 年 12 月	食品庫動力盤取替工事	880,550 円
⑪	2026 年 1 月	火災感知器および誘導灯交換	345,807 円
⑫	2026 年 1 月	エントランス屋根防水工事	242,000 円
⑬	2026 年 3 月	機械室フレキシブル継手交換	385,000 円

2025年度　研修実施一覧表　（期間 2025/4/1～2026/3/31）

（部署名　桜町高齢者在宅サービスセンター（通所介護・全体））

日　程	分　類	研　修　内　容	場　所	氏　名
5/9	総合	年度初めの会（理念・事業計画の共有）	桜町センター	高齢福祉部門
6/4, 6/19	感染症	感染症研修	桜町センター	高齢福祉部門
6/4	感染症	カトリック施設全国施設長会	WEB	鈴木治実
6/18	リスクマネージメント	事故・緊急時の対応	桜町センター	通所介護職員
7/2, 7/18	総合	ハラスメント防止研修	桜町センター	高齢福祉部門
7/28	その他	生産性向上セミナー	WEB	鈴木治実
8/8	認知症	ユマニチュード	桜町センター	通所介護職員
9/25	BCP	BCP研修（小介連）	WEB	鈴木治実
9/29	その他	生産性向上研修（WEB視聴）	桜町センター	通所介護職員
10/18	その他	チームワーク研修	戸塚ホール	高齢福祉部門
10/30	リスクマネージメント	安全運転管理者講習	WEB	鈴木治実
12/23～	事故防止	ドライブレコーダーを使用した危険予知研修、シートベルト体験研修	桜町センター、屋外（敷地内）	通所介護職員
1/15	虐待防止	高齢者虐待基礎研修	戸塚ホール	高齢福祉部門
1/22,3/11	防災	防災（消火）訓練	桜町センター	センター職員
2/8	虐待防止	東京都権利擁護研修	WEB	鈴木治実
2/26	介護	介護技術研修（入浴、食事介助、移乗）	桜町センター1階	通所介護職員
3/16	BCP	感染症（BCP）研修・訓練	桜町センター1階	通所介護職員

（部署名　　桜町ケアマネジメントセンター　（居宅介護支援）　）

日　程	分　類	研　修　内　容	場　所	氏　名
9/25	BCP	小金井市令和7年度第1回現任研修 「BCPに関する研修」	萌え木ホール	森川　靖枝
9/26	その他	令和7年度　事例検討会	戸塚ホール	金丸　遠藤　高野 森川
10/14	その他	みなみ包括支援センター第2回事例検討会	貫井北センター	髙野真知子 塩田　美紀
1/17	虐待防止	令和7年度　介護サービス事業者管理者に対する高齢者権利擁護研修	WEB	髙野真知子
2/10	その他	令和7年度　第2回　にしみなみ圏域勉強会	貫井北センター	金丸　直子
2/16	認知症	令和7年度　介護サービス事業者管理者に対する認知症のある人の意思決定支援研修	WEB	金丸　直子
2/27	その他	令和7年度　小金井市　介護認定調査員研修	萌え木ホール	森川　靖枝

（部署名　桜町ホームヘルプステーション　）

日 程	分 類	研 修 内 容	場 所	氏 名
4月25日	認知症	認知症及び認知症ケア	桜町センター2F	志藤将　川﨑なつみ 蛭本美佳　織茂成美 小柴久美子 上館まさ子　清水慶子
5月22日	BCP	BCP実地研修　α米炊き	桜町センター3F	志藤将　川﨑なつみ 蛭本美佳　織茂成美 小柴久美子 上館まさ子　清水慶子
6月4日	感染症	食中毒予防研修	桜町センター1F	志藤将　川﨑なつみ 蛭本美佳　織茂成美 小柴久美子 上館まさ子　清水慶子
7月2日	リスクマネジメント	職場のハラスメントを知ろう （モラルハラスメント）	桜町センター1F	川﨑なつみ 蛭本美佳　織茂成美 小柴久美子 上館まさ子　清水慶子
9月19日	リスクマネジメント	事故発生時と再発防止	桜町センター2F	志藤将　川﨑なつみ 蛭本美佳 小柴久美子 上館まさ子　清水慶子
10月9日	総合	介護・福祉職の相手との関係性を築く コミュニケーション術	戸塚ホール2F	川﨑なつみ 上館まさ子
10月17日	リスクマネジメント	プライバシーの保護	桜町センター2F	志藤将　川﨑なつみ 蛭本美佳　織茂成美 小柴久美子 上館まさ子　清水慶子
10月22日	リスクマネジメント	防災訓練(動画視聴・,模擬消火訓練)	ヨハネホーム1F	志藤　将
12月15日	虐待防止	WEB令和7年度　介護サービス事業管理者等 高齢者権利擁護研修(高齢者虐待防止研修)	桜町センター2F	志藤　将
1月15日	虐待防止	令和7年度東京都登録講師派遣事業 介護現場での気づきと行動を育てる 虐待防止、身体拘束ゼロ研修	戸塚ホール2F	志藤将　川﨑なつみ 蛭本美佳　織茂成美 小柴久美子 上館まさ子　清水慶子
1月22日	リスクマネジメント	防災訓練(動画視聴・,模擬消火訓練)	桜町センター1F	川﨑なつみ 織茂成美
2月11日	認知症	WEB令和7年度　介護サービス事業管理者等 に対する認知症のある人の意思決定支援研 修	桜町センター2F	志藤　将
2月11日	その他	東京都福祉局令和7年度 集団指導受講	桜町センター2F	志藤　将
2月15日	リスクマネジメント	普通救命講習会	桜町センター1F	志藤　将
2月18日	リスクマネジメント	防災訓練(動画視聴・,模擬消火訓練)	本町センター1F	上館まさ子
3月11日	リスクマネジメント	防災訓練(動画視聴・,模擬消火訓練)	桜町センター1F	清水慶子
3月12日	介護	倫理及び法令遵守、接遇	桜町センター2F	志藤将　川﨑なつみ 蛭本美佳　織茂成美 小柴久美子 上館まさ子　清水慶子

（部署名　小金井きた地域包括支援センター　　）

日　程	分　類	研　修　内　容	場　所	氏　名
7/26	看護	地域で働く看護職の役割について	東京都看護協会	小笠原
8/19	虐待	第2回虐待事例検討会	小金井市役所	新岡、中川
8/19，20	認知症	認知症地域推進員研修（新任研修）	WEB	小笠原
9/26	CM	主マネ主催第1回事例検討会	戸塚ホール	中川
10/14	CM	主マネ主催第2回事例検討会	貫井北センター	中川
11/19	認知症	認知症専門職向け研修	根岸病院	小笠原、松村
11/19、20	虐待	東京都権利擁護研修応用A	あいおいニッセイ	及川
11・21	虐待	第3回事例検討会	上之原会館	及川、中川
12/19	CM	主マネ主催研修（福祉総合相談窓口について）	萌木ホール	新岡
1/8	その他（防災）	東社協災害対策委員会防災担当研修会	そなエリア東京	松村
1/16～	CM	東京都介護支援専門員実務研修	あいおいニッセイ	松村
1/20	認知症	抗アミロイド	WEB	小笠原
1/22	認知症	チームオレンジ	新宿NSビル	小笠原
2/7	その他（防災）	防災コーディネーター研修	WEB	松村
2/10	CM	主マネ主催研修第2回	貫井北センター	中川
2/17	虐待	第4回虐待事例検討会	市役所	及川、小笠原
2/24	その他（防災）	地域とつなぐ防災講習会（小金井市主催）	宮地楽器ホール	松村
3/1	その他（防災）	東京都防災組織市民リーダー研修	ビジョンセンター新宿マインズタワー	松村
3/3	CM	小金井市主催CM研修（生活支援整備体制事業）	萌木ホール	新岡
3/10	虐待	東京都権利擁護研修応用B	あいおいニッセイ	及川
3/11	CM	小金井市主催CM研修（自立支援介護予防のためのケアマネジメント）	萌木ホール	秋山、中川

Ⅲ　本町高齢者在宅サービスセンター
通所介護事業・食の自立支援事業（小金井市受託事業）

【令和７年度利用状況報告】

● 事業別利用率状況（3 か年の推移）

種別	定員	1 日平均利用者数	利用率（R7）	利用率（R6）	利用率（R5）
通所介護（一般・予防）	25 名	17.4 名	69.8%	72.1%	73.5%
認知症対応型通所介護	12 名	5.5 名	45.6%	56.0%	72.5%
食の自立支援事業	80 名	68.2 名	85.3%	100.0%	102.6%

（1）通所介護（予防型・一般型）

①要介護度別実人数・延べ人数

介護度	要支 1	要支 1	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
実人数	2	0	215	168	159	53	31	628
割合	0.3%	0.0%	34.2%	26.8%	25.3%	8.4%	4.9%	100.0%
介護度	要支 1	要支 1	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
延べ人数	7	0	1443	1700	1473	554	175	5352
割合	0.1%	0.0%	27.0%	31.8%	27.5%	10.4%	3.3%	100.0%

●実人数　介護３以上 38.7%　介護３以下 61.3%

●延人数　介護３以上 41.1%　介護３以下 58.9%

②基本属性

平均年齢　　87.2 歳（最高 102 歳女性、最低 69 歳女性）

男女比率　　男性 19%：女性 81%

利用登録者　要介護者 61 名　要支援者　0 名　　合計 61 名

新規利用者　（23 名）　主な利用理由（外出機会の確保・転倒や認知症予防・趣味活動参加での生きがい作り・入浴希望・他デイ閉鎖に伴う移行）

廃止利用者　（24 名）　主な廃止理由（逝去・施設入所・他サービス利用入院による状態変化）

（2）認知症対応型通所介護

①要介護度別実人数・延べ人数

介護度	要支 1	要支 1	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
実人数	0	0	7	0	46	31	128	212
割合	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	21.7%	14.6%	60.4%	100.0%
介護度	要支 1	要支 1	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
延べ人数	0	0	36	0	393	185	1064	1678
割合	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	23.4%	11.0%	63.4%	100.0%

●実人数　介護３以上 96.7%　介護３以下 3.3%

●延人数　介護３以上 97.9%　介護３以下 2.1%

②基本属性

平均年齢　87.4 歳（最高 98 歳女性、最低 70 歳女性）

男女比率　男性 19%：女性 81%

利用登録者　要介護者 16 名

新規利用者　（15 名）　主な利用理由（認知症の方の全面的支援認知症ケア・見守り対応
一般型からの移行・家族介護軽減・入浴希望・その他等）

廃止利用者　（19 名）　主な廃止理由（逝去・施設入所・長期入院）

【職　　員】

	令和 7 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						令和 8 年 3 月 31 日の職員数		
				正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤	合計
	正職員	非常勤職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1 名		1 名							1 名		1 名
生活相談員	3 名		3 名							3 名		3 名
介護職員		10 名	10 名	2 名			3 名	2 名	3 名	2 名	7 名	9 名
看護職員		4 名	4 名								4 名	4 名
栄養士調理員		3 名	3 名								3 名	3 名
宅配員		10 名	10 名				10 名		10 名		0 名	0 名
食の自立 Co	1 名		1 名		1 名				1 名	0 名		0 名
事務員		1 名	1 名								1 名	1 名
運転員		3 名	3 名			1 名		1 名			4 名	4 名
清掃員		1 名	1 名			1 名	1 名	1 名	1 名		1 名	1 名
合　計	5 名	32 名	37 名	2 名	1 名	2 名	14 名	4 名	15名	6 名	20 名	26 名

※但し、兼務者は主たる業務でカウントしている。

【施設運営状況】

１．運営体制

通所介護事業の運営については、2025 年度当初における人員体制は、基準上および業務遂行上、直ちに不足している状況ではなく、現行体制を維持しながら実績の向上を図る方針のもとで事業を開始した。しかしながら、業務の平準化が十分に図れなかったことに加え、処遇面に対する不満等を背景として、フルタイムの非常勤職員２名が年度途中で退職する事態となり、現場業務をはじめ、送迎業務および入浴業務において運営が不安定な状況が生じた。

その後、異動等により職員補充を行ったものの、家庭の事情等を理由とした退職が発生し、結果として人材の定着が進まない状況が継続している。前述のとおり、年度途中において複数名の入退職が生じたことから、現場業務の再点検、職員育成体制の構築および業務マニュアルの見直しについて、早急な対応が求められる状況となっている。

なお、相談員の配置人数に変更はないものの、現時点における現場体制においては、職員数に見合った業務遂行力が十分に発揮されているとは言い難く、業務内容および人員配置について検討・調整を継続している状況である。

2026 年度に向けては、4 月 1 日付をもって、現場の中心的役割を担ってきた非常勤職員 1 名を常勤職員へ雇用転換するとともに、新たに常勤職員 1 名を採用した。これにより、事業計画に基づき、業務マニュアルの再整備および職員研修の実施について、常勤職員を中心とした体制で計画的に取り組むこととしている。

受託事業である「食の自立支援事業」の運営については、委託契約の終了に伴い、宅配業務担当職員の雇用を 2026 年 3 月 31 日付で契約終了とし、配置転換もしくは退職として整理した。また、厨房職員についても、夕方帯の給食業務が終了することから、2026 年度に向けて契約内容の見直しを行い、非常勤職員に対しては業務内容の変更および勤務時間短縮を含む契約条件の再提示を行うなど、業務量に見合った人員体制整備を進めている。
事業実績については、「3. 財務報告」において詳述するとおり、四半期ごとに数値目標を設定し利用率向上に努めたものの、結果として前年実績を下回る状況となった。

２．指定管理委託の更新と事業廃止

2025 年度において、聖ヨハネ会として本町高齢者在宅サービスセンターの指定管理更新を行った。更新にあたっての主な変更点として、指定管理業務の中心的事業の一つであった「食の自立支援事業（配食サービス)」の廃止が挙げられる。
当センターにおける当該事業の受託は終了したが、小金井市において民間事業者との新たな契約が締結され、フォーマルサービスとして事業自体は形態を変更して継続されている。事業廃止および利用者移行に関しては、大きな混乱やトラブルもなく円滑に移行が行われ、2026 年 3 月 31 日をもって当センターとしての事業は適切に終了した。

３．財務報告

本年度（2025（令和 7）年度）の決算状況について、資金収支会計における当期資金収支差額合計はマイナス 20,136 千円、事業活動収支会計における当期活動増減差額はマイナス 18,800 千円となり、前年度に引き続き大変厳しい決算結果となった。また、事業活動収支会計における介護保険事業収入は、約 126,559 万円で、前年比マイナス 3,395 万円であった。

人財の定着を含めた運営上の課題が継続しているなか、実績が十分に回復していない要因としては、業務に対する意識のばらつきや、業務遂行に対する主体性の確保が十分でない点も一因であると考えられる。このため、業務マニュアルの見直しおよび業務整理と併せて、常勤職員を中心とした職員意識の統一および業務遂行体制の強化を図る必要がある。
利用者動向については、2025 年度において施設入所への移行が比較的早いペースで進んでいる状況が見られた。本町高齢者在宅サービスセンターでは、主として中重度の支援を要する利用者を受け入れているが、在宅生活が一定程度継続可能と見込まれる利用者についても、早期に施設入所を選択されるケースが増加しており、新規利用者の確保が追いつかない状況が生じている。新規利用の相談および受け入れについては、一般型通所介護、認知症対応型通所介護ともに、「原則として受け入れを行う」方針のもと対応を継続している。
なお、食の自立支援事業については 2025 年度をもって事業終了となったが、年度内の延べ提供食数は 19,919 食、年間利用率は 85.3%となった。10 月以降、新規利用の受け入れを停止したことおよび新たな配食事業者への移行が進んだことが、数値に影響した要因として挙げられる。

【利用者支援状況】

１．サービス方針に則った取組み

（１）人格を尊重した福祉の実践

１）労務環境改善取組み

①処遇改善計画の立案と実施
・処遇改善手当対象外職員への賃金改善など
・国家資格受験料助成、健康管理支援（メンタルヘルスチェック、健康診断オプション検査助成）

②身体の健康管理対策
・腰痛ベルト支給
・職員検診（4 月）

・体温等体調確認チェック（毎日）の実施
・インフルエンザワクチン予防接種（11 月）
③メンタルの健康管理対策
・安全衛生委員会のハラスメント防止啓発
・ストレスチェックの実施および産業医の面談（中央労働災害防止協会）
④人材確保への取り組み
・カイテク利用を合わせた求人活動
⑤労働環境の整理整頓
・生産性向上のための粗大ごみ廃棄と環境整備

２）人材育成取組み

①理念に則った支援の遂行
・サービス提供現場での OJT
・常勤 MTG、職員会議で支援の振返りと検討
②介護事故、ヒヤリハットの振り返り
③生活相談員会議、給食会議、職員会議の開催
④メンター制による中途採用職員の育成
⑤集合型研修の再開

３）愉しみ、張り合い、心地よさの追求取組み

①愉しみの追求
・給食会議の実施
・行事食や食形態の見直し等を検討。
・生活リハビリを兼ねた調理プログラムの実施（・大根もち作り・みかんジャム作り・・梅シロップ作り・赤しそジュース作り・どら焼き作り・白玉作り）
・センターでの藍の栽培～藍染体験
・敬老会での手作りプレゼント作成（オリジナルフォトフレーム）
・壁掛け用大型スクリーンの使用
②張り合いの追求
・保育園との交流会(しんあい保育園)
・認知症進行予防の取り組み立案と実施
1）脳トレーニング　「脳を鍛える学習療法」
2）回想法「よい聴き手であり続けるために」
③重度障害・医療ニーズの高い認知症高齢者、看取り支援
・重度介護が必要な方や看取り介護が必要な方の受け入れ。
・経管栄養、痰の吸引、在宅酸素、褥瘡処置
・看取り支援（医療と多職種連携、食事摂取方法の検討、家族支援）
・食形態（特食）食事摂取方法の検討（栄養部と連携）
・在宅医療、介護サービスとの多職種連携（MCS の活用）

（２）安全と安心の提供

１）食の自立支援事業（配食、いっぷくカフェ）

①配食サービス

・配達日：日曜・祝日・年末年始（12/29～1/3）を除く平日
・利用日：月水金または火木土の週 3 回以内
・対　象：下記ア、イの要件を満たし且つ包括支援センターの調査訪問結果で市の承認を得た方

ア：介護保険サービスを利用している方
イ：「ひとりぐらし」もしくは「高齢者世帯」、「その他の世帯」で食材の調達・調理が困難で、定期的な見守り支援が必要な方

・利用数：定員は 80 食/日。実績は平均 68.2 食/日。

②いっぷくカフェ

・開催頻度：月 1 回
・内　　容：閉じこもり防止のきっかけづくりとして外出機会をつくる。前年度同様に会食は出来ないが、体操等を取り入れたお茶会を実施。（コーヒーや軽食を提供）短時間のミニデイサービス体験を提供。
・対　　象：食の自立支援事業配食サービスご利用者様から選定
・実施時間：14 時～15 時
・参加人数：延べ 44 名

③配食サービス移行説明会

・日　　時：2025 年 8 月 19 日（火）
・内　　容：小金井市内の居宅事業所、包括事業所を対象に 2026 年度から提供開始となる新配食事業者の試食を兼ねた説明会を実施。

2）利用者協議会

・日　　時：2026 年 3 月 24 日（火）13：30～15：00
・内　　容：本町センターの事業運営にあたり、ご利用者様および関係者の皆様からご意見を伺い、その内容を反映しながら、より適切なサービス提供を行うことを目的として実施した。
また、食の自立支援事業が民間事業者へ移行となる経過について報告を行い、ご利用者およびご家族から一定の理解を得ることができた。
皆様からは、お褒めの言葉や感謝の言葉、ならびに貴重なご意見を多数いただき、今後の事業運営における課題や改善点の整理につながるとともに、職員の励みともなった。
・参加者　：地域住民（１名）、ボランティア代表（１名）、ご利用者代表（２名）
ご家族様代表（１名）、小金井市職員（５名）、事業所職員（５名）

3）建物設備

・防犯カメラ更新工事（6 月）
・特定建築物定期調査（6 月）
・防災無線保守点検（8 月）
・増圧ポンプ点検、貯水槽清掃（断水有）（10 月）
・ガスメーター交換工事（10 月）
・福祉車両購入（11 月）
・全館 LED 化工事（11 月～翌年 1 月）
・防火扉修繕工事（2 月）
・全館停電検査（2 月）

4）感染症予防取組み

①感染症対策委員会、安全衛生委員会の活動

・感染症研修の開催（6 月：食中毒予防　集合研修グループワーク）
・感染症シミュレーション研修開催（3 月：自施設研修）
・ノロキット配備（車輌・建物）

・次亜塩素消毒薬による建物設備消毒実施
・ノロキット用塩素消毒薬の毎日交換実施
・インフルエンザ予防接種、検便検査実施
・救急救命講習実施

②感染症予防環境対策

・エタノール手指消毒液（濃度 75%以上）での消毒
・自動手指消毒、検温器の玄関フロア設置
・2 階フロア空気清浄器の使用
・感染症初動対応マニュアルの見直し
・害虫防除作業委託（通年）
・要経過観察者発生時の対応方法見直し、経過観察スペース確保

5）感染症発生状況

年間を通して感染症クラスターの発生は防止出来ており、重篤な罹患者も発生なし。

6）事故等発生状況

①労災事故

・1 件

②介護事故

・1 件（転倒事故）

③ヒヤリハット

・21 件　※内部規定による「事故発生届け」も含む

④車輌事故

・2 件（物損事故）

⑤苦情

・なし

（3）地域との共生

1）認知症に強い街づくりへの取組み

①けやきのまち振興会への加入

・けやき通りの環境整備のため継続加入。

②認知症を支える介護者の集い

・開催日：毎月第一土曜日 13 時 30 分～15 時
・内　容：認知症を支える在宅介護の経験を分かち合い、学び、気づきを得て、家族介護や自分自身と地域の今後に活かしていただく。
・対　象：当センターにおける家族会は、家族介護者に限定せず、地域で認知症の方の在宅介護の支えとなっている方、支えになりたいと考えている方、認知症サポートに興味関心のある方が自由に参加できるよう門戸を開いている。
・開催回数：　12 回（4 月～3 月）
・参加人数：　延べ 54 名

③運営推進会議（認知症対応型通所介護）

・開催日：2025 年 10 月 7 日（火）、2026 年 5 月 12 日（火）に桜町高齢者在宅サービスセンターと合同開催
・内　容：認知症型デイサービスの事業内容や事業状況を報告し、サービスの質を確保する。
・参加者：地域住民（行政書士）、ご利用者様家族、包括支援センター職員、

事業所職員

2）こがねい介護教室（家族介護者教室）

・日　時：2025 年 11 月 5 日（水）13 時 30 分～15 時 00 分
・テーマ：「介護保険制度について」
・講　師：市役所職員
・参加者：5 名（職員除く）

【施設整備状況】

（1）概況説明

1998（平成 10）年 10 月の開設から 28 年が経過しており、開設当初に導入した設備・備品については、すでに部品供給が終了しているものが多く、修理対応が困難な状況となっている。そのため、順次入替え対応が必要な段階にある。

今後、実施が想定される主な大規模修繕としては、以下のとおりである。

① 1・2 階共用部分の空調設備（GHP）の更新
② エレベーターの修繕（自動着床装置の不具合対応）
③ 自動ドア設備の更新

また、大規模修繕には該当しないものの、2 階特別浴室の油圧式ドアおよび 1 階食堂の油圧式ドアについて、開閉時の異音発生および動作不良が確認されており、速やかな修理対応が必要な状態となっている。

当センターは福祉二次避難所としての指定も受けていることから、平常時の設備維持管理に加え、災害時対応を見据えた設備整備および備蓄体制の確保についても、小金井市と連携を図りながら計画的に進めていく。なお、昨年度に報告した全館の照明器具については、小金井市の負担により、2025 年 11 月から 2026 年 1 月にかけて LED 化工事が実施されている。センター事業の運営に不可欠な送迎車両についても、（3）に記載の修繕内容のとおり故障が頻発しており、修理費用が増大している状況にある。

特に日産キャラバンについては、初年度登録から 17 年が経過していることから、交換部品の供給終了や主要機関（エンジン等）の修理が発生しており、早急な車両入れ替えが必要な状態である。

（2）主な購入物品

令和 7 年 4 月	2 階空気清浄機	￥30,800
令和 7 年 5 月	送迎用雨具	￥59,830
令和 7 年 6 月	機械浴車いす用マット	￥56,930
令和 7 年 7 月	厨房用まな板	￥65,760
令和 7 年 10 月	中古福祉車両購入	￥860,200
令和 7 年 10 月	業務用電子ジャー購入	￥67,580
令和 7 年 12 月	送迎車両タイヤ(日産 ｷｬﾗﾊﾞﾝ)	￥94,160
令和 7 年 12 月	送迎車両タイヤ(日産 ｽﾍﾟｰｼｱ)	￥47,784

（3）主な修繕・設備入替

①本町 C 対応

令和 7 年 4 月	送迎車両修理(日産 ｷｬﾗﾊﾞﾝ)	￥92,466
令和 7 年 5 月	送迎車両修理(ｽｽﾞｷ ｽﾍﾟｰｼｱ)	￥33,396
令和 7 年 5 月	厨房洗浄機・ガスコンロ修理	￥98,868
令和 7 年 6 月	送迎車両修理(日産 ｷｬﾗﾊﾞﾝ)	￥135,063

令和７年７月	送迎車両修理(日産 ｷｬﾗﾊﾞﾝ)	￥30,443
令和７年７月	厨房用業務用エアコン修理	￥48,400
令和７年７月	送迎車両修理(ｽｽﾞｷ ｽﾍﾟｰｼｱ)	￥66,000
令和７年７月	厨房用業務用冷蔵庫修理	￥25,850
令和７年８月	SECOM 防犯カメラシステム更新	￥776,160
令和７年 11 月	送迎車両修理(ｽｽﾞｷ ｽﾍﾟｰｼｱ)	￥46,090
令和７年 11 月	送迎車両修理(日産 ｷｬﾗﾊﾞﾝ)	￥63,965

②小金井市対応

令和７年 11 月	
～	全館 LED 化工事
令和８年１月	
令和８年２月	防火扉修理

【事業状況】（利用実績集計表・利用率の推移）

事業別　2025(R7)年度　利用実績集計表　　2025年4月～2026年3月　　本町高齢者在宅サービスセンター

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険事業	通所介護・一般　日数		26	25	25	27	26	26	27	25	25	24	24	26	306
	23名/日	定員	598	575	575	621	598	598	621	575	575	552	552	598	7,038
	介護給付	新規	4	2	2	5	4	0	1	0	0	2	2	1	23
	（23人想定）	継続	16	1	0	2	1	1	1	0	0	1	0	1	24
		登録数	50	51	53	56	59	58	58	58	58	59	61	61	–
		実利用者数	48	50	52	55	53	50	52	52	50	52	52	53	–
		延利用者数	447	455	470	482	457	456	463	437	416	413	408	436	5,340
		人数/日当	17.2	18.2	18.8	17.9	17.6	17.5	17.1	17.5	16.6	17.2	17.0	16.8	17
		利用率	74.7%	79.1%	81.7%	77.6%	76.4%	76.3%	74.6%	76.0%	72.3%	74.8%	73.9%	72.9%	75.9%
	予防給付	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	（2名想定）	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		登録数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	–
		実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	–
		延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	4
		人数/日当	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
		利用率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	4.2%	0.0%	0.7%
	小　計	延利用者数	447	455	470	482	457	456	463	437	416	415	410	436	5,344
		利用率	68.8%	72.8%	75.2%	71.4%	70.3%	70.2%	68.6%	69.9%	66.6%	69.2%	68.3%	67.1%	69.9%
事業	通所介護・認知症　日数		26	25	25	27	26	26	27	25	25	24	24	26	306
	12名/日	定員	312	300	300	324	312	312	324	300	300	288	288	312	3,672
		新規	2	0	2	2	1	2	0	1	0	1	1	3	15
		継続	6	2	0	1	1	2	2	2	0	1	2	0	19
		登録数	22	20	22	23	23	23	21	20	20	20	19	22	–
		実利用者数	22	20	20	20	20	20	17	14	14	15	14	16	–
		延利用者数	163	140	156	160	144	151	151	126	130	128	111	118	1,678
		人数/日当	6.3	5.6	6.2	5.9	5.5	5.8	5.6	5.0	5.2	5.3	4.6	4.5	5.5
		利用率	52.2%	46.7%	52.0%	49.4%	46.2%	48.4%	46.6%	42.0%	43.3%	44.4%	38.5%	37.8%	45.6%
	通所介護合計	実利用者数	70	70	72	75	73	70	69	66	64	68	67	69	–
		延利用者数	610	595	626	642	601	607	614	563	546	543	521	554	7,022
		※通所介護全体利用率	63.4%	64.3%	67.7%	64.3%	62.5%	63.1%	61.5%	60.9%	59.0%	61.1%	58.7%	57.6%	62.0%
事業	家族介護者教室	回　数								1					1
		利用者数								5					5
	認知症高齢者家族支援	回　数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		利用者数	1	2	3	15	1	2	13	2	1	2	9	3	54
食の自立支援事業	食の自立支援事業　日数		25	24	25	26	25	24	26	23	24	22	22	25	291
	80人/日	定員	2000	1920	2000	2080	2000	1920	2080	1840	1920	1760	1760	2000	######
	①②③⑤	食数	1975	1825	1822	1835	1647	1634	1759	1546	1617	1462	1351	1446	######
		利用率	98.8%	95.1%	91.1%	88.2%	82.4%	85.1%	84.6%	84.0%	84.2%	83.1%	76.8%	72.3%	85.5%
	①配食サービス	登録数	179	175	172	168	160	158	155	155	153	147	144	143	–
		実利用者数	169	169	163	158	149	148	144	147	146	143	134	126	–
		食数	1971	1821	1818	1831	1644	1631	1756	1542	1613	1459	1347	1442	######
		食/日当	78.8	75.9	72.7	70.4	65.8	68.0	67.5	67.0	67.2	66.3	61.2	57.7	68.2
		利用率	98.6%	94.8%	90.9%	88.0%	82.2%	84.9%	84.4%	83.8%	84.0%	82.9%	76.5%	72.1%	85.3%
	②緊急配食	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		食数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	③会食サービス	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延利用者数	4	4	4	4	3	3	3	4	4	3	4	4	44
		回数													0
		延利用者数													0
	④栄養マネジメント	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（自立書道クラブ）	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑤調査・ケアプラン	新規・継続	2	4	1	1	1	3	0	0	0	0	0	0	12
	高齢者見守りサービス	実利用者数	1	1	1	0	0	3	2	1	2	1	2	2	16
独自事業	パーチェタイム（自費）	延利用者数	2	1	1	0	0	10	8	7	8	7	9	10	63
	日常生活支援	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（各種相談対応等）	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボランティア活動	実人数	12	18	19	21	17	15	12	17	29	20	17	16	–
		延人数	20	28	35	26	30	26	18	26	40	29	25	31	334
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

2025年度　本町高齢者在宅サービスセンター　研修計画・実施一覧表

2025．4月　～　2026．3月

日　程	分　類	研　修　内　容	場　所	参加者氏名
6月4日（水）	感染症	高齢部門合同感染症研修1回目	桜町C	全職員
6月18日（水）	その他	アンガーマネジメント研修	WEB	長津宏史
6月19日（木）	感染症	高齢部門合同感染症研修2回目	桜町C	全職員
7月2日（水）	ハラスメント	ハラスメント防止研修	桜町C	全職員
7月18日（金）	ハラスメント	ハラスメント防止研修	桜町C	全職員
7月28日（月）	その他	生産性向上セミナー	WEB	長津宏史
10月30日（木）	リスクマネジメント	安全運転管理者講習	WEB	長津宏史
1月15日（木）	虐待防止	高齢者虐待防止研修	WEB	長津・市村
2月15日（日）	BCP	普通救命講習	桜町C	長津宏史
2月18日（水）	その他	防災研修	本町C	全職員
3月31日（火）	感染症	感染症シュミレーション研修	本町C	本町職員

３．医療部門

Ⅰ　桜町病院　（生計困難者の為に無料・低額な料金で診療を行う事業）

【施設運営状況】

◎財務状況について　（千円）

	2025 年度 当初予算	2025 年度 決算①	2024 年度 決算②	前年対比 ①-②
事業活動収入(1)	2,968,862	2,932,141	3,184,205	-205,596
（再掲）入院診療収入	1,981,122	1,785,765	2,027,867	-242,102
（再掲）外来診療収入	618,900	585,934	630,365	-44,431
（再掲）その他医療事業収入	66,669	207,278	28,034	179,244
事業活動支出(2)	2,970,470	2,878,388	3,184,205	-305,817
（再掲）人件費	1,917,480	1,886,881	2,092,624	-205,743
（再掲）医薬品費	210,503	180,819	209,448	-28,629
（再掲）診療材料費	211,824	214,321	244,954	-30,633
（再掲）業務委託費（事業費）	245,000	23,2741	241,170	-8,429
事業活動資金収支差額(3)	61,179	53,753	-46,467	100,220
施設設備等資金収支差額(6)	-39,948	-98,008	-111,300	13,291
その他の活動資金収支差額(9)	-38,368	322,988	156,846	166,141
当期資金収支差額合計	-17,137	278,732	-921	279,653

喫緊の課題である財務状況については、当初予算には及ばないものの、事業活動資金収支差額、施設設備等資金収支差額、当期資金収支差額合計のいずれも昨年度より改善している。ただし、上記改善は多額の補助金や借入金による収入に依るところが大きく、経営状況は未だ不安定であると言わざるを得ない。

収入面では、昨年度末に実施した療養病棟の休止により、入院診療収入が前年対比で約 242,102 千円減少した。休止前の療養病棟の収入は月平均 20,000 千円程度であったため、休止分の収入がそのまま減少したことになる。当初の計画では、療養病棟以外の病床の稼働率を向上させることで、病床減による減収以上の入院診療収入を確保することを目指していたが、入院患者の確保、特に年度前半の紹介患者数の低迷により、計画数を大きく下回ることとなった。直接入院患者の確保を目指し、年度途中から午後の外来診療の再開や、救急車の受入強化策等を実施したが、未達分を埋めるだけの収入は確保できなかった。

支出面では、病棟休止の影響もあり、人件費・医薬品費・診療材料費の削減が大きく進展した。特に人件費については、想定以上に退職者が多かったこともあるが、欠員補充の抑制に努めたことにより、計画を上回る支出削減を達成した。積年の課題であった「収入見合いの支出」という点に関しては、多少なりとも進展があったと考えている。

上記収支の状況に加え、都や国から総額 2 億を超える補助金等収入があったことにより、事業活動資金収支差額は結果的に黒字であった。しかしながら、補助金の申請から入金まではタイムラグ

が存在するため、運転資金は度々ショートを繰り返すこととなった。このため、当面の資金繰りの安定化目的で、2026 年 3 月に福祉医療機構から 3 億円の借入を行った。上記借入金の返済が始まる 2 年後までに、補助金に依らない安定的な経営状況へ持ち込む必要があり、経営改善、とりわけここ数年来の課題である入院患者の確保を引き続き進めていく。

◎診療実績について

１．一日平均患者数

外来・入院ともに前年度の実績を下回った。前年度末における常勤医師の退職（内科 1 名、整形外科 1 名、精神神経科 1 名）により、予算編成時時点で前年度を下回ることを想定して目標設定したものの、想定を更に下回る結果となった。

入院については、療養病棟休止後の患者の伸びが想定を大きく下回ったことが大きい。特に年度の前半は紹介患者の減少により、一日平均入院患者数が 100 名を下回る月もあった。このため、外来や救急からの入院受入強化を行い、年度の後半は患者数が増加したものの（一日平均入院患者数上半期 102.0 名、下半期 109.2 名）、当初の見込が過大であったことは否めない。

外来については、上記の医師退職の影響が整形外科および精神神経科で顕著に現れることとなった。整形外科は地域のニーズが高く、入院に繋がる症例も多いため、常勤医師の確保に努めたが、採用には至らなかった。2025 年度末にも常勤整形外科医 1 名が退職しているが、欠員補充は実現しておらず、今後の大きな課題となっている。

	2025 年度 当初目標	2025 年度 実績	2024 年度 実績	2023 年度 実績
一日平均入院患者数	127.4 名	105.5 名	131.9 名	135.1 名
内科	53.0 名	37.7 名	32.9 名	31.7 名
外科	14.0 名	8.6 名	8.8 名	7.8 名
整形外科	29.0 名	31.8 名	33.0 名	33.6 名
小児科	1.2 名	0.9 名	1.3 名	1.1 名
産婦人科	12.0 名	11.0 名	10.6 名	11.9 名
眼科	1.2 名	1.1 名	1.2 名	1.1 名
ホスピス	17.0 名	14.5 名	14.4 名	13.7 名
療養病棟	－	－	29.6 名	34.1 名
一日平均外来患者数	260.1 名	247.4 名	277.7 名	280.9 名
内科	102.0 名	95.2 名	100.4 名	99.6 名
外科	10.0 名	14.1 名	15.4 名	14.9 名
整形外科	41.0 名	38.5 名	46.8 名	47.9 名
小児科	30.0 名	23.5 名	28.5 名	32.2 名
精神神経科	10.0 名	19.3 名	26.7 名	27.4 名
産婦人科	31.0 名	28.2 名	29.9 名	31.1 名
眼科	28.0 名	26.8 名	27.9 名	25.7 名
ホスピス	1.5 名	1.3 名	1.5 名	1.7 名

２．手術件数

ほぼ昨年度並みの手術件数を維持することができた。特に整形外科は執刀医が 1 名減ったものの、前年度と同じ件数を維持することができた。数年来減少傾向にあった産婦人科の手術件数も、新しい術式の導入もあってか、若干の増加を見ている。

現状、入院収入に占める手術の割合は約 2 割程度とかなりのウェイトを占めており、今後も手術件数の維持拡大は必須であるが、現状の人員体制ではこれ以上の増加は難しく、整形外科の執刀医確保が急務である。

	2025 年度 実績	2024 年度 実績	2023 年度 実績	2022 年度 実績
年間手術件数	887 件	917 件	958 件	944 件
外科	21 件	26 件	33 件	22 件
整形外科	292 件	292 件	302 件	275 件
産婦人科	374 件	362 件	407 件	409 件
眼科	200 件	237 件	216 件	238 件

３．分娩件数

昨年に比べ大きな変動は無かったものの、若干件数は減っており、漸減傾向にあるのは否めない。原因としては、出生数の減少以外に近隣分娩施設との競合が考えられる。

恐らく数年内に導入されるであろう正常分娩の保険適用により、分娩機関の集約が進んでいくと予想されるところだが、市内唯一の分娩機関として少なからぬ役割を果している現状を鑑み、継続可能な形を探っていくこととしたい。

	2025 年度 実績	2024 年度 実績	2023 年度 実績	2022 年度 実績
年間分娩件数	251 件	267 件	272 件	241 件

４．無料低額診療実績

昨年度に比べ受診者数が大きく減少している。原因は不明であるが、相談件数自体も減っており、景気の動向と関連しているものと推測している。

規模は小さいものの、公的医療保険制度のすき間を埋めるものとして当事業の存在意義は極めて大きく、受診者数の多寡に関わらず今後も継続していく。制度の認知度を高めるための取組みも継続して行う。

	2025 年度 実績	2024 年度 実績	2023 年度 実績
特別診療券による外来受診件数	46 件	105 件	87 件
特別診療券による外来受診人数（実人数）	14 名	25 名	24 名

【医療安全について】

療養病棟休止により、延べ入院患者が減少したことから、レポート件数は昨年度に比べて大きく減少した。一方で、レベル 3ｂの患者数は増加している。レベル 3ｂの大半は転棟・転落であり、患者の高齢化に伴う認知機能低下が主因である。

◎インシデントレポート件数

	2025 年度	2024 年度
レポート件数	1,212 件	1,424 件
うちレベル 3a（一時的な治療を要する）　件数	106 件	118 件
うちレベル 3b（継続的な治療を要する）　件数	10 件	6 件

◎レベル 3b の内訳

概要	2025 年度	2024 年度
治療・処置	1 件	0 件
転倒・転落	7 件	5 件
療養上の世話	0 件	1 件
その他	2 件	0 件

【職員の状況】

2024 年度末の療養病棟の休止以降、全体的に新規採用・欠員補充ともに抑制基調としている。年度の半ばに助産師の退職が相次ぎ、分娩維持のためやむを得ず人材派遣会社を利用したが、年度終了時点では比較的落ち着いている。一方で、慢性的に人手不足で、通年で採用を行っているものの補充に至らない職種（看護助手、栄養科、リハビリ等々）もあり、採用方法のみならず給与面の見直しは今後避けられないと考えている。

区分	2025 年 4 月 1 日の職員数		入退職				2026 年 3 月 31 日の職員数	
	常勤職員	非常勤職員	常勤職員		非常勤職員		常勤職員	非常勤職員
			入職	退職	入職	退職		
医　師	23	43	0	1	14	14	22	43
助産師	5	10	2	4	11	6	3	15
看護師	63	45	9	9	6	10	63	41
准看護師	2	1	0	0	0	0	2	1
看護助手	8	4	1	2	1	0	7	5
薬剤師	7	1	0	2	2	0	5	3
放射線技師	6	0	0	1	3	1	5	2
臨床検査技師	10	0	0	1	0	0	9	0
PT・OT・ST	9	4	1	0	0	2	10	2
栄養士	6	0	1	0	0	0	7	0
社会福祉士	5	0	0	0	0	0	5	0
事務部	18	13	1	1	0	0	18	13
施　設	2	1	0	0	0	0	2	1
その他	9	28	0	2	4	5	7	27
合　計	173	150	15	23	41	38	165	153

事務部の人数は（事務部長・総務課・経理・医事課）

その他の人数は（診療情報管理室・診療技術部助手・調理師・調理員・心理士・保育士等）

入退職の人数は常勤から非常勤、又は非常勤から常勤への勤務形態変更を含む

【機器・施設整備状況】

目下の経営状況を鑑み、2025 年度は必要最低限の機器更新に止めざるを得ず、ナースコール更新および多目的トイレの折れ戸修理の 2 点のみ計画していたが、資金繰りの状況からナースコール更新は次年度に延期した。

計画外では、寄付金を活用して老朽化した超音波検査装置の更新を行ったほか、エアコン故障への対応として、医師当直室内にルームエアコンを新規設置した。本館共用部のエアコンは設置後約 20 年を経過しており、修繕部品の調達が困難になりつつある。このため、全面更新に向けた計画を進めていたが、費用捻出の目途が立たず中断している。当面は緊急性の高い箇所から順に、部分的な更新を繰り返していかざるを得ない。

電子カルテシステムの更新は、当初 26 年度開始のリース購入を予定していたため、25 年度予算には計上していなかったが、東京都からの補助金交付にあたり、年度内の一括払いが要件であったため、福祉医療機構からの借入金により支払いを行った。なお、本件に係る東京都からの補助金交付額は 82,582 千円であった。

機器名	数量	金額(千円)	新設/更新
北 4 病棟多目的トイレ折れ戸更新	1	1,643	更新
医師当直室エアコン　個別化工事（3 室）	3	1,335	新設
○超音波画像診断装置（寄付金で購入）	1	3,766	更新
電子カルテシステム（ハードウェア）	一式	73,674	更新
電子カルテシステム（ソフトウェア）	一式	76,390	更新

【特記事項】

１．病床数の変更について

2025 年 3 月末に休止した療養病棟について、当面再開の予定がないことに加え、運転資金の枯渇が深刻であったことから、東京都の実施する病床数適正化支援事業に応募し、44 床中 17 床の返還が認められた。2025 年 9 月 30 日付で上記 17 床を返還し、以降の許可病床数は 182 床（うち療養病棟は 27 床）となっている。なお、上記事業による東京都からの給付金は 69,768 千円であった。

２．認知症疾患医療センターの廃止について

東京都の指定を受けて 2016 年より運営してきた認知症疾患医療センターについて、常勤精神科医の確保が困難であったことから事業継続の見通しが立たず、昨年度より東京都と指定解除に向けた協議を進めてきた。2025 年 9 月末をもって正式に指定解除を受け、事業廃止の運びとなった。事前に地区医師会や市役所、近隣医療機関と連携し、市民に不利益が及ばぬよう細心の配慮をもって進めた結果、大きな混乱を招くこともなく、年度内に他医療機関へ事業を引き継ぐことができた。

３．桜町児童ショートステイの廃止について

桜町病院別館での短期入所事業は予定通り 2024 年度をもって廃止し、以降は障害部門東京事業所の施設（小金井聖ヨハネケアービレッジ）を借りて移行支援事業を行った。従業員 1 名体制での実施であったが、障害部門の協力も得て、無事故で事業を終えることができた。

当事業を経由して障害部門の成人向け短期入所サービスへ移行した方は 2 名（25 年度末時点）であった。利用時点で小中学生であった利用者は、すぐに成人向けサービスに移行することは当然難しいものの、将来的な選択肢を増やすという点で、本事業の意義は大きかったと考えている。

当初の計画通り、移行支援事業は 2025 年 12 月末で終了し、事業所も 2026 年 1 月末で廃止している。小金井市をはじめ関係各市の長年にわたるご理解、ご協力に改めて感謝申し上げる。

◎移行支援事業（2025 年 4 月～12 月）実績

開所回数	81 回
延べ利用者数	336 名（小金井 136 名、小平 116 名、武蔵野 76 名、西東京 8 名）

４．さくらんぼ保育室の廃止について

小金井市からの委託事業である病児保育（さくらんぼ保育室）については、開設以降利用者数が伸び悩んでおり、今後の在り方について検討を要する状況ではあったが、差し当たり今年度は事業を継続することで市役所とも合意していた。その後、市役所の方針変更により、当該事業所の場所に学童保育を開設することが決定したため、2025 年 7 月末をもって急遽事業廃止の運びとなった。

以上

４．収益事業部門

施設名　：　学童保育賃貸事業

【事業運営】

小金井市（以下「市」という）では、社会情勢の変化などから、学童保育所（児童福祉法（昭和２２年法律第１６４号）第６条の３第２項に規定する放課後児童健全育成事業を実施する施設をいう。以下同じ。）の需要が増加しており、公立の学童保育所では、施設定員を上回る申込みがあり、大規模化している。

この需要に対応するため、「小金井市子ども子育て支援事業計画　のびゆくこどもプラン小金井」を策定し、今後の学童保育所の運営・整備に当たっては、児童の安全性、保育の質の確保等を踏まえ、学校施設内の施設併用利用や民間施設の活用及び民設民営を推進するなど、緊急対応の必要なところから優先的に保育環境の整備を進めることとしている。

そこで、令和５年度に民設民営学童保育所施設整備事業費補助金を創設し、その補助金を活用して**令和８年４月１日**に学童保育所を開設し、運営する事業者（設置事業者）を募集することとなった。その開設場所として院内保育を実施していたさくらまち保育所の場所を今般提供することとなった。

９月に事業者が決定し、開設準備のために１２月より決定事業者への賃貸事業が発生することとなった。

令和８年４月１日の開設を目指して準備を進めつつ、開設事業者との連携を図り運営に協力していきたい。なお、定員は４０名になると確認している。

【事業場所整備報告】

開設事業者の補助事業として整備されているため、発生はなし。

三　理事会

第 380 回　　2025 年 4 月 24 日（木）

（1）決議事項

第 1 号議案　　運営協議会委員選任の件

第 2 号議案　　諸規程の制定及び改定の承認の件

(1)　高齢福祉部門正規就業規則

(2)　〃　非常勤職員就業規則

(3)　法人本部就業規則

(4)　〃　給与規程

第 3 号議案　　学童保育事業への事業場所提供検討の件

（2）その他報告事項

第 381 回　　2025 年 6 月 3 日（火）

（1）報告事項

報告事項 1　理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告について(下半期実績報告)

（2）決議事項

第 1 号議案　　2024 年度監事監査報告の承認の件

第 2 号議案　　2024 年度事業報告及び計算書類等の承認の件

第 3 号議案　　社会福祉充実残額の承認の件

第 4 号議案　　次期評議員候補者の選出の件

第 5 号議案　　評議員選任・解任委員会の開催決定の件

第 6 号議案　　次期役員候補者の選出の件

第 7 号議案　　役員等賠償責任保険契約の承認の件

第 8 号議案　　学童保育賃貸事業の承認の件

第 9 号議案　　病児・病後児保育事業の廃止の承認の件

第 10 号議案　院内保育事業の廃止の件

第 11 号議案　高齢者賃貸住宅事業の廃止（収益事業）の廃止の承認の件

第 12 号議案　施設長等の人事の件

第 13 号議案　諸規程の制定及び改定の承認の件

(1)小金井聖ヨハネケアービレッジ運営規程

第 14 号議案　役員報酬規程の改定の件

第 15 号議案　基本財産処分承認申請の承認の件

第 16 号議案　定款変更認可申請の承認の件

第 17 号議案　定時評議員会の招集事項決定の件

第 382 回　　2025 年 6 月 19 日（木）

（1）決議事項

第 1 号議案　理事長 1 名選定の件

第 2 号議案　業務執行理事選定の件
第 3 号議案　評議員選任・解任委員選定の件

第 383 回　　2025 年 7 月 24 日（木）
（1）報告事項
報告事項 1　　東京都病床数適正化支援事業の内示の件
（2）決議事項
第 1 号議案　　桜町聖ヨハネホームの改築に関する件
第 2 号議案　　学童保育賃貸事業の事業計画等の件
第 3 号議案　　諸規程の制定及び改定の承認の件
(1) 小金井聖ヨハネ支援センター就労継続支援 B 型運営規程
(2) 桜町病院育児休業規則

第 384 回　　2025 年 8 月 28 日（木）
（1）決議事項
第 1 号議案　　学童保育賃貸事業の事業計画等の件
第 2 号議案　　小金井聖ヨハネ支援センター就労移行支援事業の廃止の件
第 3 号議案　　レンタサイクル貸出ステーション設置の件
第 4 号議案　　諸規程の制定及び改定の承認の件
(1) 高齢福祉部門職員推薦紹介制度規程
(2)　〃　SNS 運用規程
第 5 号議案　　法人組織体制に関する提案の件
第 6 号議案　　東京都認知症疾患医療センター廃止の承認の件

第 385 回　　2025 年 9 月 25 日（木）
（1）決議事項
第 1 号議案　　法人組織改定の件
第 2 号議案　　2025 年度収支状況の件
第 3 号議案　　桜町病院資金繰りの件
第 4 号議案　　桜町聖ヨハネホーム老朽度調査の件
第 5 号議案　　諸規程の制定及び改定の承認の件
(1) 高齢福祉部門育児休業規則

第 386 回　　2025 年 10 月 23 日（木）
（1）決議事項
第 1 号議案　　法人組織改定の件
第 2 号議案　　諸規程の制定及び改定の承認の件
(1) 桜町聖ヨハネホーム運営規程
(2) 桜町高齢者在宅サービスセンター運営規程
(3) 本町高齢者在宅サービスセンター運営規程
(4) 障害福祉部門正規職員就業規則

(5)　〃　非正規職員就業規則

第 3 号議案　2025 年度収支状況の件

第 4 号議案　桜町病院経営改善状況の件

第 5 号議案　桜町病院院内情報システム更新の件

（2）報告事項

報告事項 1　認知症疾患医療センター契約解除の件

第 387 回　2025 年 11 月 25 日（火）

（1）決議事項

第 1 号議案　2025 年度第一次補正予算の承認の件

第 2 号議案　桜町病院経営改善状況の件

第 3 号議案　評議員会の招集事項決定の件

第 4 号議案　学童保育賃貸事業賃料設定の件

第 5 号議案　諸規程の制定及び改定の承認の件

(1)経理規程

（2）報告事項

報告事項 1　理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告の件（上半期実績報告）

第 388 回　2025 年 12 月 25 日（木）

（1）決議事項

第 1 号議案　諸規程の制定及び改定の承認の件

(1)　法人組織規程

(2)　定款細則

(3)　障害福祉部門組織規程

(4)　桜町ケアマネジメントセンター運営規程

第 2 号議案　法人内資金状況と病院運転資金借入承認の件

第 389 回　2026 年 1 月 22 日（木）

（1）決議事項

第 1 号議案　諸規程の制定及び改定の承認の件

(1)　障害福祉部門運営規程

(2)　経理規程

(3)　法人組織規程

(4)　定款細則

第 390 回　2026 年 2 月 26 日（木）

（1）決議事項

第 1 号議案　2025 年度第二次補正予算の承認の件

第 2 号議案　中期経営計画（2026-2028 年度）の承認の件

第 3 号議案　諸規程の制定及び改定の承認の件

(1)　障害福祉部門運営規程

(2)　法人組織規程
(3)　定款細則
(4)　高齢福祉部門職員就業規則
(5)　〃　非常勤職員就業規則

第 4 号議案　施設長等人事の件

第 5 号議案　医療機関等における賃上げ・物価上昇に関する支援事業への申請の件

第 391 回　2026 年 3 月 17 日（火）

（1）決議事項

第 1 号議案　諸規程の制定及び改定の承認の件
(1)　障害福祉部門組織規程
(2)　法人組織規程
(3)　高齢福祉部門職員就業規則

第 2 号議案　河口湖聖ヨハネケアービレッジ廃止の承認の件

第 3 号議案　中期経営計画（2026-2028 年度）の承認の件

第 4 号議案　2026 年度事業計画及び予算の承認の件

第 5 号議案　評議員会の招集事項決定の件

四　評議員会

第 121 回　　2025 年 6 月 19 日（木）

（１）報告事項

報告事項１　2024 年度監事監査報告の件

報告事項２　2024 年度事業報告の件

報告事項３　事業の廃止及び新たな事業の開始に関する報告の件

（２）決議事項

第１号議案　2024 年度計算書類等の承認の件

第２号議案　社会福祉充実残額の承認の件

第３号議案　次期役員の選任の件

第４号議案　役員報酬規程の改定の件

第５号議案　基本財産処分申請の承認の件

第６号議案　定款変更認可申請の承認の件（１）報告事項

第 122 回　　2025 年 12 月 11 日（木）

（１）決議事項

第１号議案　2025 年度第一次補正予算の承認の件

（２）報告事項

報告事項１　理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告について（上半期実績報告）

第 123 回　　2026 年 3 月 30 日（月）

（１）決議事項

第１号議案　中期経営計画（2026-2028 年度）の承認の件

第２号議案　2026 年度事業計画及び予算の承認の件

五　　経営会議

2025 年 4 月 17 日（木）

【報告事項】

(1) 利用率推移、職員状況、行事・トピックス報告（2025 年 3 月度）

(2) 新委員について

【議　　案】

(1) 東社協登録講師派遣事業について

(2) 福利厚生制度の開始について

(3) BCP 机上訓練について

(4) 社会福祉施設における運営費の運用及び指導について

2025 年 5 月 15 日（木）

【報告事項】

(ア) 利用率推移、職員状況、行事・トピックス報告（2025 年 4 月度）

(イ) 国の情勢等資料説明

【議　　案】

(1) 福利厚生制度の開始について

(2) BCP 机上訓練について

(3) 障害者雇用について

2025 年 7 月 3 日（木）

【報告事項】

(1) 利用率推移、職員状況、行事・トピックス報告（2025 年 5 月度）

(2) 新役員等について

【議　　案】

(1) 出向制度について

(2) 地域交流会について

(3) 事業運営について

2024 年 7 月 17 日（木）

【報告事項】

(1) 利用率推移、職員状況、行事・トピックス報告（2025 年 6 月度）

【議　　案】

(1) お金にまつわる勉強会確定拠出型年金（大和証券）について

(2) 障害者雇用について

(3) 火災保険の更新について

2025年8月21日（木）

【報告事項】

(1) 利用率推移、職員状況、行事・トピックス報告（2025年7月度）

(2) 福利厚生メニュー利用実績報告

【議　　案】

(1) 火災保険の更新について

(2) 自動車保険の更新について

(3) 地域交流会について

(4) 第一四半期実績について

2025年9月18日（木）

【報告事項】

(1) 利用率推移、職員状況、行事・トピックス報告（2025年8月度）

【議　　案】

(1) 4-7月実績報告について

(2) 電気料金の見直しについて（病院）

(3) 地域交流会について

2025年10月16日（木）

【議　　案】

(1) 4-8月実績報告について

(2) 2025年度補正予算について

(3) 地域交流会について

2025年11月20日（木）

【議　　案】

(1) 確定拠出型年金の導入検討について

(2) 2025年度補正予算について

(3) 地域交流会について

2025年12月18日（木）

【議　　案】

(1) 学童保育事業について（株式会社明日葉）

(2) 法人内資金状況と病院運転資金借入について

(3) 採用時誓約書について

(4) 会計監査人による施設見学について

(5) 法人全体研修の設定について

2026 年 1 月 15 日（木）

【議　　案】

(1) 直近の実績と第二次補正予算について

(2) 入職式と法人合同研修の設定について

2026 年 2 月 19 日（木）

【議　　案】

(1) 会計ソフト（SWING 財務会計）の更新について

(2) 入職式と法人合同研修の設定について

2026 年 3 月 19 日（木）

【議　　案】

(1) 2026 年度入職式と法人合同研修について

(2) 障害者雇用について